

裾野市地域防災計画

# 地震対策編

地震対策編 目次

総則		頁
第1章	総則	
	第1節 計画の主旨	1
	第2節 過去の顕著な災害	2
	第3節 予想される災害	2
	第4節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱	3
発災前		頁
第2章	平時対策	
	第1節 防災思想の普及	11
	第2節 自主防災活動	11
	第3節 地震防災訓練の実施	11
	第4節 地震災害予防対策の推進	13
発災前		頁
第3章	地震防災施設緊急整備計画	
	第1節 地震防災施設緊急整備基本方針	21
	第2節 地震対策緊急整備事業計画	23
南海トラフ地震臨時情報発表時		頁
第4章	南海トラフ地震臨時情報への対応	
	I 南海トラフ地震臨時情報(調査中)が発表された場合における災害応急対策に係る措置	
	第1節 南海トラフ地震臨時情報(調査中)の伝達等	24
	II 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表された場合における災害応急対策に係る措置	
	第1節 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の伝達等	24
	第2節 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表された後の周知	25
	第3節 災害応急対策をとるべき期間等	25
	第4節 県及び市のとるべき措置	25
	III 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)が発表された場合における災害応急対策に係る措置	
	第1節 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)の伝達、災害対策本部等の設置等	25
	第2節 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)が発表された後の周知	26

	第3節	災害応急対策をとるべき期間等	26
	第4節	避難対策等	26
	第5節	消防機関等の活動	27
	第6節	警備対策	27
	第7節	水道、電気、ガス、通信、放送関係	28
	第8節	金融	28
	第9節	交通	28
	第10節	市自らが管理等を行う施設に関する対策	29
	第11節	滞留旅客等に対する措置	30

		発災後	頁
第5章	災害応急対策		
	第1節	防災関係機関の活動	31
	第2節	情報活動	32
	第3節	広報活動	32
	第4節	緊急輸送活動	32
	第5節	広域応援要請及び受援計画	32
	第6節	災害の拡大及び二次災害防止活動	32
	第7節	避難活動	33
	第8節	社会秩序を維持する活動	33
	第9節	交通の確保対策	33
	第10節	地域への救援活動	33
	第11節	学校における災害応急対策及び応急教育	34
	第12節	被災者生活再建等の支援	34
	第13節	市有施設及び設備等の対策	34
	第14節	防災関係機関の講ずる災害応急対策	34
	第15節	地震防災応急計画を作成すべき施設・事業所の災害応急対策	35

		復旧・復興期	頁
第6章	第1節	防災関係機関の活動	37
	第2節	激甚災害の指定	41
	第3節	震災復興計画の策定	41
	第4節	復興財源の確保	41
	第5節	震災復興基金の設立	42
	第6節	復旧事業の推進	42
	第7節	都市・農地の復興	43

	第8節 被災者の生活再建支援	44
	第9節 地域経済復興支援	45

東海地震注意情報発表時、警戒宣言発令時		頁
別紙	東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策	
	第1節 防災関係機関の活動	47
	第2節 情報活動	52
	第3節 広報活動	53
	第4節 自主防災活動	54
	第5節 緊急輸送活動	56
	第6節 自衛隊の支援	57
	第7節 避難活動	57
	第8節 社会秩序を維持する活動	60
	第9節 交通の確保活動	61
	第10節 地域への救援活動	63
	第11節 市有施設設備の防災装置	64
	第12節 防災関係機関等の講ずる生活及び安全確保等の措置	66
	第13節 地震防災応急計画を作成すべき施設・事業所の対策	70
	第14節 市が管理又は運営する施設等の地震防災応急対策	74

# 第1章 総則

この計画の目的、性格、構成を明らかにし、市（以下「市」という。）、防災関係機関、事業所及び市民等がそれぞれ果たすべき役割を示す。

また、この計画の基礎となる静岡県が平成25年に発表した第4次地震被害想定概要を示す。

## 第1節 計画の主旨

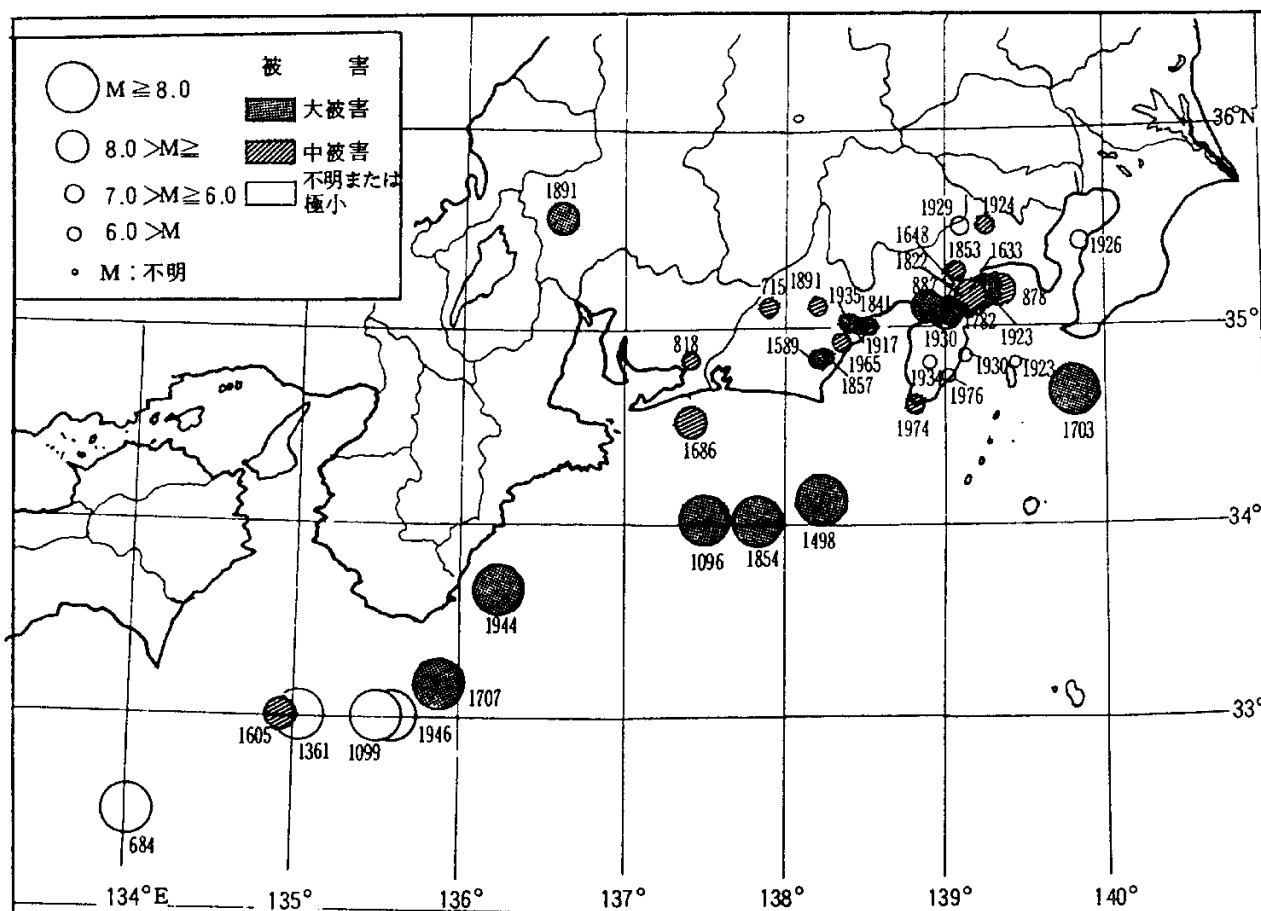
この計画は、災害対策基本法（昭和36年法律第223号）第42条の規定に基づき作成する「裾野市地域防災計画」の「地震対策編」として定めるものであり、大規模地震対策特別措置法（昭和53年法律第73号）第6条の規定に基づく「地震防災強化計画」及び「南海トラフ地震に係る地震防災対策の推進に関する特別措置法（平成14年法律第92号）」第5条の規定に基づく「南海トラフ地震防災対策推進計画」を含むものである。

各編の名称	記載内容																
目的	平時に実施する地震防災対策（以下「平時対策」という。）、地震防災上緊急に整備すべき施設等の整備に関する事項（以下「地震防災施設緊急整備計画」という。）、南海トラフ地震臨時情報が発表された場合に実施する防災対応及び災害時に実施する災害応急対策について定め、これらの対策を推進することにより、市土並びに市民の生命、身体及び財産を地震による災害から保護することを目的とする。																
性格	(1)本市の地域に係る地震対策について定める。 (2)市、県、防災関係機関、事業所及び、市民等が地震対策に取り組むための基本方針である。 (3)第3章は「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」（昭和55年法律第63号）、「地震防災対策特別措置法」（平成7年法律第111号）に基づく地震対策事業及びその他の地震対策事業について定める。 (4)「静岡県地震対策推進条例」に規定している対策について、特に緊急に実施するものについて定める。 (5)この計画は、状況の変化に対応できるよう、必要に応じ、見直しを行う。																
構成	この計画は、本編と別紙から構成し、本編の構成は、次の第6章による。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tbody> <tr> <td style="width: 30%;">第1章 総則</td> <td>計画の目的、性格、構成、第4次地震被害想定など、計画の基本となる事項</td> </tr> <tr> <td>第2章 平時対策</td> <td>平時の教育、広報、訓練及び災害予防の対策</td> </tr> <tr> <td>第3章 地震防災施設緊急整備計画</td> <td>整備すべき防災事業の種類、目的、内容等</td> </tr> <tr> <td>第4章 南海トラフ地震臨時情報への対応</td> <td>南海トラフ地震臨時情報が発表された場合における災害応急対策</td> </tr> <tr> <td>第4-2章 地震防災応急対策</td> <td>東海地震注意情報が発表され、又は警戒宣言が発令されてから東海地震が発生するまで又は発生する恐れがなくなるまでの間に行うべき対策</td> </tr> <tr> <td>第5章 災害応急対策</td> <td>地震災害が発生した場合の災害応急対策</td> </tr> <tr> <td>第6章 復旧・復興対策</td> <td>災害応急対策に一定の目途が立った後の復旧・復興対策</td> </tr> <tr> <td>別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策</td> <td>東海地震注意情報が発表され、又は警戒宣言が発せられてから東海地震が発生するまで又は発生するおそれなくなるまでの間に行うべき対策</td> </tr> </tbody> </table>	第1章 総則	計画の目的、性格、構成、第4次地震被害想定など、計画の基本となる事項	第2章 平時対策	平時の教育、広報、訓練及び災害予防の対策	第3章 地震防災施設緊急整備計画	整備すべき防災事業の種類、目的、内容等	第4章 南海トラフ地震臨時情報への対応	南海トラフ地震臨時情報が発表された場合における災害応急対策	第4-2章 地震防災応急対策	東海地震注意情報が発表され、又は警戒宣言が発令されてから東海地震が発生するまで又は発生する恐れがなくなるまでの間に行うべき対策	第5章 災害応急対策	地震災害が発生した場合の災害応急対策	第6章 復旧・復興対策	災害応急対策に一定の目途が立った後の復旧・復興対策	別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策	東海地震注意情報が発表され、又は警戒宣言が発せられてから東海地震が発生するまで又は発生するおそれなくなるまでの間に行うべき対策
第1章 総則	計画の目的、性格、構成、第4次地震被害想定など、計画の基本となる事項																
第2章 平時対策	平時の教育、広報、訓練及び災害予防の対策																
第3章 地震防災施設緊急整備計画	整備すべき防災事業の種類、目的、内容等																
第4章 南海トラフ地震臨時情報への対応	南海トラフ地震臨時情報が発表された場合における災害応急対策																
第4-2章 地震防災応急対策	東海地震注意情報が発表され、又は警戒宣言が発令されてから東海地震が発生するまで又は発生する恐れがなくなるまでの間に行うべき対策																
第5章 災害応急対策	地震災害が発生した場合の災害応急対策																
第6章 復旧・復興対策	災害応急対策に一定の目途が立った後の復旧・復興対策																
別紙 東海地震に関連する情報及び警戒宣言に係る応急対策	東海地震注意情報が発表され、又は警戒宣言が発せられてから東海地震が発生するまで又は発生するおそれなくなるまでの間に行うべき対策																

## 第2節 過去の顕著な災害

- 本県は有史以来たびたび地震、津波による災害に見舞われている。駿河湾から遠州灘にかけての海域には海洋プレートの境界を成す駿河トラフや南海トラフが存在し、巨大地震を繰り返し発生させてきた。
- 陸域には糸魚川－静岡構造線や中央構造線などの大きな地質構造線が存在し、また、富士川河口断層帯、伊豆半島に分布する断層など多くの活断層が存在し、内陸直下の被害地震を発生させてきた。
- 特に近年では1930年北伊豆地震、1935年静岡地震、1944年東南海地震、1974年伊豆半島沖地震、1978年伊豆大島近海地震、2009年駿河湾の地震、2011年静岡県東部の地震、また1978年頃より始まった伊豆半島東方沖の一連の群発地震活動による地震災害が発生している。
- 県下に大被害を与えた地震及び県下で震度5以上が観測された地震の分布を示すと次の図のようになる。

日本被害地震総覧(宇佐美龍夫)に加筆



## 第3節 予想される災害

- 本市に著しい被害を発生させるおそれがある地震としては、その発生の切迫性が指摘されている駿河湾及び駿河トラフ付近におけるプレート境界を震源域とする東海地震（マグニチュード8クラス）がある。このほか、駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震として東南海地震や南海地震（それぞれマグニチュード8クラス）があり、また、これらの地震が連動して、あるいは時間差を持って発生する可能性も考えられる。一方、相模トラフ・相模湾側では、大正型関東地震（マグニチュード7.9程度）や神奈川県西部を震源域とするマグニチュード7クラスの地震がある。
- また、東日本大震災の教訓として「想定外は許さない」という観点から、発生する頻度は極めて小さいが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震として、南海トラフ巨大地震（マグニチュード9クラス）や元禄型関東地震（マグニチュード8.1程度）などの巨大地震についても発生することを想定する必要がある。

ある。

- この他、山梨県東部や伊豆半島、静岡県中部などを震源とする地震活動にも注意を払っておく必要がある。市は、地震災害対策の検討に当たり、科学的知見を踏まえ、これらのあらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震を含む様々な地震を想定し、その想定結果や切迫性等に基づき対策を推進する必要がある。

#### 【第4次地震被害想定】

- 地震によって、市内でどのような現象が発生し、どの程度の被害を受けるかを定量的に試算（静岡県で実施）した結果を示し、的確かつ効果的な防災対策の樹立に資するものである。
- 試算については、当市において、その発生切迫性が指摘され、かつ、最大級の災害が想定される地震として、中央防災会議「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震対策に関する専門調査会報告」などを踏まえ、駿河トラフ・南海トラフ沿いと相模トラフ沿いで発生するレベル1・2の地震を対象とした。なお、試算に用いた断層モデルは、現時点での科学的知見に基づき検討されたものであり、今後の科学的知見の蓄積を踏まえて検証され、場合によっては修正される可能性があることに留意するものとする。

区 分	レベル1の地震	レベル2の地震
駿河トラフ・南海トラフ沿いで発生する地震	東海地震 東海・東南海地震 東海・東南海・南海地震 宝永型地震 安政東海型地震 5地震総合モデル	南海トラフ巨大地震 (内閣府(2012))
相模トラフ沿いで発生する地震	大正型関東地震	元禄型関東地震(※) 相模トラフ沿いの最大クラスの地震 (内閣府(2013))

※相模トラフ沿いでは約200～400年間隔で海溝型(プレート境界型)の地震が発生しており、このうち元禄16年(1703年)元禄関東地震は大正12年(1923年)大正関東地震に比べ広い震源域を持つ既往最大の地震とされている。

※国から相模トラフ側でのあらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震が提示されるまでの間、当該地震を相模トラフ側のレベル2の地震と位置付ける。

- この試算値は、今後、適切かつ効果的な地震対策の推進、さらに市民の防災への自助・努力を積み重ねることによって、大幅に減少させることができると考えられる。

なお、裾野市における被害想定試算値は、資料編 資料2-6「裾野市第4次地震被害想定」に示す。

## 第4節 防災関係機関の処理すべき事務又は業務の大綱

市、県、市の地域を管轄する指定地方行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関及び地震防災応急計画又は南海トラフ地震防災対策計画(以下「対策計画」という。)を作成すべき者は、それぞれ南海トラフ地震等の防災対策を行うものとし、それぞれが実施すべき事務又は業務の大綱は次のとおりである。

### 1 市(消防機関を含む)

- (1) 地震対策計画の作成
- (2) 地震防災に関する組織の整備
- (3) 自主防災組織の育成指導、及び市民の地震対策の促進
- (4) 防災思想の普及
- (5) 防災訓練の実施
- (6) 地震防災のための施設等の緊急整備

- (7) 地震防災応急計画及の作成指導、届出の受理
- (8) 南海トラフ地震臨時情報、地震情報、その他地震に関する情報の収集、伝達及び広報
- (9) 緊急地震速報の意義と受信時にとるべき対応行動の広報・啓発
- (10) 避難の指示に関する事項
- (11) 消防、水防、その他の応急措置
- (12) 応急の救護を要すると認められる者の救護、その他保護に関する事項
- (13) 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における市有施設及び設備の整備又は点検
- (14) 緊急輸送の確保
- (15) 食料、医薬品、その他の物資の確保、清掃、防疫、その他の保健衛生活動の準備等災害応急対策の準備及び実施
- (16) その他地震災害発生の防止、又は拡大防止のための措置

## 2 県

- (1) 地震対策計画の作成
- (2) 地震防災に関する組織の整備
- (3) 自主防災組織の育成指導、その他県民の地震対策の促進
- (4) 防災思想の普及
- (5) 防災訓練の実施
- (6) 地震防災のための施設等の緊急整備
- (7) 震度観測網及び震度情報ネットワーク等の維持・整備
- (8) 地震防災応急計画及び対策計画の作成指導及び届出の受理
- (9) 南海トラフ地震臨時情報、地震情報、その他地震に関する情報の収集、伝達及び広報
- (10) 緊急地震速報の意義と受信時にとるべき対応行動の広報・啓発
- (11) 避難の指示に関する事項
- (12) 水防、その他の応急措置
- (13) 応急の救護を要すると認められる者の救護、その他保護に関する事項
- (14) 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における県有施設及び設備の整備又は点検
- (15) 犯罪の予防、交通の規制その他社会秩序の維持
- (16) 緊急輸送の確保
- (17) 食料、医薬品、その他の物資の確保、清掃、防疫、その他の保健衛生活動の準備等災害応急対策の準備及び実施
- (18) 市町、指定地方行政機関、指定公共機関、指定地方公共機関の地震防災応急対策及び災害応急対策の連絡調整
- (19) その他地震災害発生の防止、又は拡大防止のための措置

## 3 静岡県警察（裾野警察署）

- (1) 災害関連情報の収集及び伝達
- (2) 被害実態の早期把握
- (3) 負傷者の救出救助
- (4) 緊急輸送路の確保等交通上の措置
- (5) 避難誘導及び2次災害の防止措置
- (6) 検視及び行方不明者の捜索
- (7) 被災地域における社会秩序の維持
- (8) 市民の安全の確保と不安解消のための広報
- (9) 関係機関の行う災害復旧、復興対策への協力
- (10) その他必要な警察業務

## 4 防災関係機関

### (1) 指定地方行政機関

機関名	処理すべき事務又は業務
警察庁関東管区警察局	ア 管区内各県警察の災害警備活動及び相互援助の指導・調整に関すること イ 他管区警察局及び警察庁との連携に関すること

	<p>ウ 管区内防災関係機関との連携に関すること</p> <p>エ 管区内各県警察及び防災関係機関等からの情報収集並びに報告連絡に関すること</p> <p>オ 警察通信の確保及び統制に関すること</p> <p>カ 津波・噴火警報等の伝達に関すること</p>
総務省東海総合通信局	<p>ア 災害時に備えての電気通信施設（有線電気通信施設及び無線通信施設）の整備のための調整及び電波の監理</p> <p>イ 災害時における電気通信の確保のための応急対策及び非常の場合の無線通信の監理</p> <p>ウ 災害地域における電気通信施設の被害状況調査</p> <p>エ 通信インフラに支障が発生した被災地の地方公共団体への衛星携帯電話等の災害対策用移動通信機器及び災害対策用移動電源車の貸与</p> <p>オ 非常通信訓練の計画及びその実施についての指導に関すること</p> <p>カ 非常通信協議会の運営に関すること</p>
総務省中部管区行政評価局 （静岡行政監視行政相談センター）	<p>ア 被災者への生活支援情報の提供</p> <p>イ 専用電話を備えた相談窓口の開設</p> <p>ウ 特別行政相談所の開設</p>
財務省東海財務局（静岡財務事務所沼津出張所）	<p>ア 災害時における財政金融の適切な措置並びに関係機関との連絡調整</p> <p>イ 災害時の応急措置のための国有財産の無償提供移管すること</p>
厚生労働省静岡労働局 （沼津労働基準監督署）	<p>ア 事業場に対する地震防災対策の周知指導</p> <p>イ 事業場の被災状況の把握</p>
農林水産省関東農政局	<p>ア 農業関係、卸売市場及び食品産業事業者等の被害状況の把握に関すること</p> <p>イ 応急用食料・物資の支援に関すること</p> <p>ウ 食品の需給・価格動向の調査に関すること</p> <p>エ 飲食品、油脂、農畜産物等の安定供給対策に関すること</p> <p>オ 飼料、種子等の安定供給対策に関すること</p> <p>カ 病害虫防除及び家畜衛生対策に関すること</p> <p>キ 営農技術指導及び家畜の移動に関すること</p> <p>ク 被害農業者及び消費者の相談窓口に関すること</p> <p>ケ ダム・ため池、頭首工、地すべり防止施設等、防災上重要な施設の点検・整備事業の実施又は指導に関すること</p> <p>コ 農地・農業用施設及び公共土木施設の災害復旧に関すること</p> <p>サ 被害農業者に対する金融対策に関すること</p>
農林水産省関東農政局 静岡県拠点	<p>農林水産省各局庁、関東農政局企画調整室及び静岡県拠点地方参事官、森林管理局の指示により静岡県に連絡要員（リエゾン）を派遣し、以下の業務を実施する。</p> <p>ア 農作物、営農施設、農地・農業用施設及び森林・林業施設等の被害状況や応急対策の措置状況等に関する、被災自治体が把握している情報の収集及び地方農政局又は森林管理局への報告</p> <p>イ 応急用食料・物資の支援に係る静岡県担当者、内閣府リエゾン及び農林水産本省（食料・物資支援チーム事務局等）との連絡調整</p> <p>ウ 静岡県の食料・物資支援拠点における応急用食料・物資の到着状況に関する、食料・物資支援チーム事務局及び関東農政局への報告</p> <p>エ その他農林水産本省各局庁、関東農政局又は森林管理局が指示する業務</p>
経済産業省関東経済産業局	<p>ア 生活必需品、復旧資材等防止関係物資の円滑な供給の確保に関すること</p> <p>イ 商工鉱業の事業者の業務の正常な運営の確保に関すること</p> <p>ウ 被災中小企業の振興に関すること</p> <p>エ 電気の安定供給に関すること</p> <p>オ ガスの安定供給に関すること</p>
経済産業省	<p>ア 火薬、高圧ガス、液化石油ガスなどの安全確保に関すること</p>

関東東北産業保安監督部	<p>イ 鉱山に関する災害防止及び災害時の応急対策に関すること</p> <p>ウ 電気の安全確保に関すること</p> <p>エ ガスの安全確保に関すること</p>
国土交通省中部地方整備局 (沼津河川国道事務所)	<p>管轄する道路についての計画、工事及び管理を行うほか、次の事項を行うよう努める。</p> <p>ア 災害予防</p> <p>    (ア) 所管施設の耐震性の確保</p> <p>    (イ) 応急復旧用資機材の備蓄の推進及び防災拠点施設等の充実</p> <p>    (ウ) 機動力を生かした実践的な方法による防災訓練の実施</p> <p>    (エ) 公共施設等の被災状況調査を行う防災エキスパート制度の運用</p> <p>イ 初動対応</p> <p>    地方整備局災害対策本部等からの指示により、情報連絡員（リエゾン）及び緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）等を派遣し、被災地方公共団体等が行う、被災状況の迅速な把握、被害の発生及び拡大の防止、被災地の早期復旧その他災害応急対策に対する支援を行うとともに、緊急車両の通行を確保するため、関係機関と調整を図りつつ、道路管理者等で構成する協議会で策定した道路啓開計画に基づき、道路啓開を実施する。</p> <p>ウ 応急・復旧</p> <p>    (ア) 防災関係機関との連携による応急対策の実施</p> <p>    (イ) 路上障害物の除去等による緊急輸送路の確保</p> <p>    (ウ) 所管施設の緊急点検の実施</p> <p>    (エ) 市からの要請に基づく災害対策用建設機械等の貸付</p> <p>エ 警戒宣言発令時</p> <p>    (ア) 警戒宣言、地震予知情報等の迅速な伝達</p> <p>    (イ) 地震災害警戒体制の整備</p> <p>    (ウ) 人員・資機材等の配備・手配</p> <p>    (エ) 緊急輸送路確保のための交通規制に対する協力</p> <p>    (オ) 道路利用者に対する情報の提供</p>
国土交通省中部運輸局	<p>ア 所掌事務に係る災害情報の収集及び伝達</p> <p>イ 鉄道及びバスの安全運行の確保に必要な指導・監督</p> <p>ウ 自動車道の通行の確保に必要な指導・監督</p> <p>エ 陸上における物資及び旅客輸送を確保するための、自動車の調達あっせん、輸送の分担、う回輸送、代替輸送等の指導</p> <p>オ 緊急陸上輸送の要請に速やかに対応できるよう、関係運送事業者団体及び運送事業者との連絡体制の確立、緊急輸送に使用しうる車両等の把握及び緊急時の出動体制の整備</p> <p>カ 特に必要があると認めるときは、自動車運送事業者に対する輸送命令</p> <p>キ 大規模自然災害における被災状況の迅速な把握、被災地の早期復旧等に関する支援のため緊急災害対策派遣隊（TEC-FORCE）を派遣する。</p>
国土地理院中部地方測量部	<p>ア 災害応急対策の際、災害に関する情報の収集及び伝達における地理空間情報の活用を図る。</p> <p>イ 災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興の際、国土地理院が提供及び公開する防災関連情報の利活用を図る。</p> <p>ウ 災害予防、災害応急対策及び災害復旧・復興の際、地理情報システムの活用を図る。</p> <p>エ 災害復旧・復興にあたっては、位置に関わる情報の基盤を形成するため、必要に応じて復旧測量等を実施する。</p>
気象庁東京管区气象台 (静岡地方气象台)	<p>ア 県知事に対して速やかに南海トラフ地震に関連する情報の通報を行うこと</p> <p>イ 気象庁が発表する地震動警報（緊急地震速報）の利用の心得などの周知・広報、大津波警報、津波警報及び津波注意報の通知、津波情報、地震情報（南海トラフ</p>

	地震に関連する情報を含む。)等の発表又は通報並びに解説 ウ 地震観測施設の整備並びに観測機器の保守 エ 地震及び津波に関する啓発活動並びに防災訓練に対する協力 オ 異常現象に関する情報が発見者又は行政機関から通報された場合、すみやかに気象庁本庁に報告し適切な措置を講ずること
環境省関東地方環境事務所	ア 有害物質等の発生等による汚染状況の情報収集及び提供 イ 廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集 ウ 行政機関等との連絡調整、動物救護活動の状況等に関する情報収集、提供等 エ 放射性物質による汚染状況の情報収集及び提供並びに汚染等の除去への支援
環境省中部地方環境事務所	廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集
防衛省南関東防衛局	ア 所管財産使用に関する連絡調整 イ 災害時における防衛省本省及び自衛隊との連絡調整 ウ 在日米軍が災害対策措置を行う場合の連絡調整支援

## (2) 指定公共機関

機関名	処理すべき事務又は業務
日本郵便株式会社東海支社	ア 郵便事業の運営に関すること イ 災害の発生時又はそのおそれがある場合においては、可能な限り窓口業務を確保すること ウ 施設等の被災防止に関すること エ 利用者の避難誘導に関すること
日本銀行（静岡支店）	ア 通貨の円滑な供給の確保 イ 現金供給のための輸送、通信手段の確保 ウ 金融機関の業務運営の確保に係る措置 エ 金融機関による金融上の措置の実施に係る要請 オ 各種措置に関する広報
日本赤十字社静岡県支部	ア 医療、助産及び遺体措置に関すること イ 血液製剤の確保及び供給のための措置 ウ 被災者に対する義援物資の配布 エ 義援金の募集 オ 災害救助の協力奉仕者の連絡調整
日本放送協会（静岡放送局東部報道室）	ア 地震災害に関する解説、キャンペーン番組等の積極的な編成による視聴者の地震防災に関する認識の向上 イ 臨時ニュースの編成メディアを有効に活用し、南海トラフ地震臨時情報、地震情報及びその他の地震に関する情報の正確迅速な提供に努めること ウ 地方公共団体等の要請に基づき、予報、警報、警告等の放送を行うこと エ 放送施設、設備の災害予防のため、防災施設、設備の整備を進めること
中日本高速道路株式会社（御殿場保全・サービスセンター）	ア 交通対策に関すること イ 地震防災応急対策及び災害応急対策に関すること
東海旅客鉄道株式会社 日本貨物鉄道株式会社	ア 南海トラフ地震臨時情報、地震情報等の伝達 イ 列車の運転規制措置 ウ 旅客の避難、救護 エ 南海トラフ地震臨時情報、列車の運行状況、旅客の避難実施状況等の広報 オ 地震発生後に備えた資機材、人員等の配備手配 カ 施設等の整備
NTT 西日本株式会社（沼津支店） NTT 東日本電話株式会社（小	ア 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における重要通信の確保 イ 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における通信疎通状況等の広報 ウ 復旧用資機材等の確保並びに広域応援計画に基づく手配

田原支店) 株式会社NTTドコモ東海 支社（静岡支店）	
岩谷産業株式会社 アストモスエネルギー株式 会社 株式会社ジャパングスエナ ジー ENEOS グローブ株式会社 ジクシス株式会社	LP ガスタンクローリー等による LP ガス輸入基地、2次基地から充填所への LP ガスの配送
日本通運株式会社 （沼津支店） 福山通運株式会社 佐川急便株式会社 ヤマト運輸株式会社 西濃運輸株式会社	防災関係機関の要請に基づく緊急輸送車両の確保
東京電力パワーグリッド 株式会社静岡総支社	ア 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における電力の緊急融通等による電力供給の確保 イ 復旧用資機材の整備 ウ 電力施設の災害予防措置及び広報の実施
KDDI 株式会社 （静岡支店） ソフトバンク株式会社 楽天モバイル株式会社	重要な通信を確保するために必要な措置の実施
一般社団法人日本建設 業連合会中部支部 一般社団法人全国中小建設 業協会	公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力
株式会社イトーヨーカ堂 イオン株式会社 ユニー株式会社 株式会社セブンイレブン・ジ ャパン 株式会社ローソン 株式会社ファミリーマート 株式会社セブン&アイ・ホー ルディングス	被災地の復旧・復興を支援するため事業活動を早期に再開

## (3) 指定地方公共機関

機関名	処理すべき事務又は業務
一般社団法人静岡県医師会 （沼津医師会裾野地区） 一般社団法人静岡県歯科医師会 （駿東歯科医師会裾野支部） 公益社団法人静岡県看護協会 （東部支部） 公益社団法人静岡県病院協会 公益社団法人静岡県薬剤師会	ア 医療救護施設における医療救護活動の実施 イ 検案（公益社団法人静岡県看護協会、公益社団法人静岡県薬剤師会及び公益社団法人静岡県病院協会を除く） ウ 災害時の口腔ケアの実施（一般社団法人静岡県歯科医師会駿東歯科医師会裾野支部）

(沼津薬剤師会)	
静岡ガス株式会社 (東部支社)	<p>ア 需要家に対する都市ガスによる災害の予防広報</p> <p>イ 南海トラフ地震臨時情報発表時におけるガス供給の確保</p> <p>ウ 施設設備の耐震予防対策の実施</p> <p>エ 南海トラフ地震臨時情報発表時における防災広報、施設の点検等災害予防措置</p>
一般社団法人静岡県LPガス協会 (御殿場地区会裾野ブロック)	<p>ア 需要家に対するLPガスによる災害の予防広報</p> <p>イ 協会加入事業所による施設設備の耐震化等の予防対策の実施</p> <p>ウ 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時における防災広報並びに協会加入事業所の施設の点検等災害防止措置の実施</p> <p>エ 燃料の確保に関する協力</p> <p>オ 協会加入事業所による被害状況調査及び応急復旧</p>
静岡県道路公社 (東部管理センター)	<p>ア 避難路、緊急輸送路の道路施設及び占有物の点検</p> <p>イ 緊急輸送路を確保するために緊急に対策を必要とする箇所の整備</p> <p>ウ 緊急輸送路の利用を円滑に行うための交通規制広報、障害物の除去及び応急復旧</p>
静岡放送株式会社 (沼津支社) 株式会社テレビ静岡 (沼津支社) 株式会社静岡朝日テレビ (東部支社) 株式会社静岡第一テレビ (東部支局) 静岡エフエム放送株式会社 株式会社エフエムみしま・かなみ	<p>ア 地震防災に関するキャンペーン番組、地震防災メモのスポット、定時ニュース番組等による防災知識の普及</p> <p>イ 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害時において特別番組を編成し、南海トラフ地震臨時情報、地震情報、その他地震に関する情報、国、県、市町、防災関係機関等の防災活動状況を放送すること</p> <p>ウ 放送施設・機器類等の整備の事前点検と災害予防のための設備の整備</p>
一般社団法人静岡県トラック協会 一般社団法人静岡県バス協会(東部支部) 商業組合静岡県タクシー協会	防災関係機関の要請に基づき、協会加盟事業所からの緊急輸送車両等の確保
一般社団法人静岡県警備業協会	災害時の道路交差点での交通整理支援
土地改良区 (富士裾野東部土地改良区)	<p>ア 災害予防 所管施設の耐震性の確保</p> <p>イ 南海トラフ地震臨時情報発表時 関係機関等に対する用水状況の情報提供</p> <p>ウ 応急・復旧 (ア) 関係機関との連携による応急対策の実施 (イ) 所管施設の緊急点検 (ウ) 農業用水及び非常用水の確保</p>
公益社団法人静岡県栄養士会	<p>ア 要配慮者等への食料品の供給に関する協力</p> <p>イ 避難所における健康相談に関する協力</p>
一般社団法人静岡県建設業協会	公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力

## (4) 陸上自衛隊

機関名	処理すべき事務又は業務
陸上自衛隊 ・第34普通科連隊（板妻） ・特科教導隊（富士）	ア 災害時における人命又は財産保護のための救援活動 イ 災害時における応急復旧活動

## (5) その他公共的団体

機関名	処理すべき事務又は業務
裾野市商工会	物資の供給・価格安定への協力
富士伊豆農業協同組合	ア 農林水産物等の被害調査の協力 イ 農産物の確保 ウ 農林水産物等の被害応急対策指導
裾野市建設業協会	災害応急復旧対策への協力
裾野市防災指導委員会	ア 自主防災組織の育成指導 イ 市民の防災意識の高揚
裾野市自主防災組織	ア 平時 （ア） 防災知識の普及・啓発 （イ） 防災訓練の実施 （ウ） 地域内の安全点検 （エ） 資機材の整備 イ 災害発生時 （ア） 初期消火活動 （イ） 救出・救助活動 （ウ） 情報の収集・伝達 （エ） 避難誘導 （オ） 避難所の管理運営 （カ） 区民の把握
防災上重要な施設の管理者	ア 施設の防災管理 イ 保安措置・応急措置の実施 ウ 当該施設の災害復旧

## (6) 地震防災応急計画の作成義務者

処理すべき事務又は業務
ア 地震防災訓練 イ 従業員及び施設利用者等に対する避難方法等の周知 ウ 従業員等に対する防災教育及び広報 エ 災害応急対策に必要な資機材等の確保措置 オ 防災組織の整備 カ 南海トラフ地震臨時情報の収集及び伝達 キ 南海トラフ地震臨時情報発表時における従業員及び施設利用者等の避難誘導 ク 南海トラフ地震臨時情報発表時における火気の規制、施設整備の点検、仕掛工事の中止等安全措置 ケ 地震発生時における従業員及び施設利用者等の避難誘導

## 第2章 平時対策

地震発生時及び南海トラフ地震臨時情報発表時に、的確な防災対策が講じられるようにするため、平時に行う防災思想の普及、防災訓練、自主防災活動等について定める。

### 第1節 防災思想の普及

(共通対策編 第2章 災害予防計画 第4節「防災知識の普及計画」に準ずる。)

### 第2節 自主防災活動

(共通対策編 第2章 災害予防計画 第8節「自主防災組織の育成」及び第9節「事業所等の防災活動」に準ずる。)

### 第3節 地震防災訓練の実施

- 南海トラフ地震臨時情報発表時及び地震災害発生時に的確な防災対策を実施するための訓練について定める。
- 市民は、自主防災組織及び事業所等の防災組織の構成員として市の実施する訓練に積極的に参加し、的確な防災対応を体得するものとする。
- なお、高齢者、障がいのある人、外国人、乳幼児、妊産婦等要配慮者に十分配慮した訓練を実施し、要配慮者の支援体制の整備に努めるとともに、被災時の男女のニーズの違い等男女双方の視点に十分配慮するよう努めるものとする。

## 1 市

### 1-1 防災訓練の内容

- 市は、国、県、他市町村、防災関係機関、自主防災組織等と共同し、又は単独で総合的、個別的に次の訓練を行う。
- 訓練にあたっては、南海トラフ地震臨時情報が発表される場合及び突然地震が発生する場合、それぞれの各種の時間帯を想定して実施し、訓練のシナリオに緊急地震速報を取り入れる等逐次訓練内容の高度化を図り、初動体制、情報収集・伝達体制の強化等により実効性の上がる訓練を行い、防災対応への習熟度を高める。
- 訓練終了後は、評価を実施し課題・問題点を明確にし、必要に応じ体制等の改善を行うものとする。
- 随時、図上訓練を実施し、防災対策の見直しに資するものとする。

区 分	内 容
総合防災訓練	南海トラフ地震臨時情報発表、災害発生を経て応急復旧に至る防災対策について、次の事項、又は、突発的に大規模な災害が広域的に発生した際の適切な行動対応に重点をおいて行う。 ア 職員の緊急招集動員及び配備 イ 南海トラフ地震臨時情報、地震情報、その他防災上必要な情報の収集及び伝達 ウ 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害発生時の広報 エ 南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害発生時の避難誘導、避難指示及び警戒区域の設定 オ 緊急地震速報を受けたときの適切な対応行動 カ 食料、飲料水、医療その他の救援活動 キ 防災資機材の輸送 ク 消防活動及び水防活動 ケ 救出・救助、救護活動 コ 道路啓開活動 サ 応急復旧活動 シ その他

地域防災訓練	<p>ア 12月第1日曜日を「地域防災の日」と定め、自主防災組織を中心とした地域の実情にあった防災訓練を実施する。</p> <p>イ この訓練は、突然発生地震を想定するものとし、県が作成した訓練内容に関する指針を参考に、要配慮者等に配慮した訓練を実施する。</p>
個別防災訓練	<p>総合防災訓練とは別に個別防災訓練を行う。その主な事項は次のとおりとする。</p> <p>ア 情報の収集、伝達訓練 南海トラフ地震臨時情報発表時及び地震発生時には、情報の正確、迅速な収集及び伝達が防災対策の基本となるため、自主防災組織、防災関係機関と協力して訓練を行う。 また、訓練に当っては、有線電話が途絶した時や勤務時間外等の条件を想定して行う。</p> <p>イ 職員の動員訓練</p> <p>ウ 交通機関、交通用具の使用を制限又は禁止し、さらに勤務時間の内、外を加味して実施する。</p>

## 1-2 防災訓練の広報

訓練に市民等の積極的参加を求め、又は訓練に伴う混乱を防止するため、必要な広報を行う。

## 1-3 学校教育、福祉関係機関の訓練

訓練種目、内容等は、施設毎に計画し実施する。

## 1-4 自主防災組織等の訓練

自主防災組織等は、あらかじめ定める防災計画等により訓練を行うものとする。また、市が実施する訓練には積極的に参加するものとする。

## 2 防災関係機関の訓練

○防災関係機関は、それぞれ定めた地震防災強化計画又は地震防災応急計画並びに南海トラフ地震防災対策推進計画又は対策計画に基づいて訓練を行う。

○市が実施する訓練には積極的に参加するものとする。

機関名等	重点事項
東海旅客鉄道株式会社 静岡支社裾野駅	<p>ア 南海トラフ地震臨時情報の伝達</p> <p>イ 列車の運転規制方及び運転再開方</p> <p>ウ 旅客の避難誘導</p>
NTT 西日本株式会社沼津支店 株式会社NTTドコモ東海支社静岡支店	<p>ア 南海トラフ地震臨時情報等の伝達</p> <p>イ 南海トラフ地震臨時情報発表を想定した通信ふくそう対策等の地震防災応急対策</p> <p>ウ 地震発生を想定した通信設備の緊急復旧等の地震災害応急対策</p>
中日本高速道路株式会社 東京支社御殿場保全・サービスセンター	<p>ア 南海トラフ地震臨時情報等の伝達</p> <p>イ 地震発生に備えた資機材、人員等の配備手配</p> <p>ウ 交通対策</p> <p>エ 緊急点検</p>
東京電力パワーグリッド株式会社	<p>ア 情報連絡、災害復旧資機材の整備点検及び復旧</p> <p>イ 地震防災応急対策</p> <p>ウ 災害復旧</p>
静岡ガス株式会社	<p>ア ガス供給停止等非常態勢の確立</p> <p>イ 防災に関する整備、資材等の確保、点検</p> <p>ウ 安全について需要家等に対する広報</p>
富士急行株式会社	<p>ア 乗客の避難</p> <p>イ 情報伝達</p>
地震防災応急計画及び	<p>ア 情報の収集及び伝達</p>

対策計画の作成義務者	イ 避難誘導 ウ 火災予防措置及び施設、設備等の点検 エ その他施設、事業の特性に応じた事項 ※対象施設は「大規模地震対策特別措置法施行令 第4条」のとおり
------------	---

## 第4節 地震災害予防対策の推進

- 地震災害対策の検討に当たり、県の想定結果に基づき対策を推進するものとする。
- 地震による火災や建築物の倒壊等による災害の発生を予防し、又は軽減するための対策、被災者を救出するための対策、被災後の生活を確保するための措置等、平時における予防対策を定める。
- 市は、令和5年度から令和14年度までの10年間の行動計画として、「裾野市地震対策アクションプログラム2013」の後継となる「裾野市地震対策アクションプログラム2023」を策定し、これまでの10年間の成果・課題を踏まえ、静岡県第4次地震被害想定で推計される犠牲者の更なる減少を図るための対策に加え、被災後の市民生活の健全化にも重点を置き、県内市町と連携して、ハード・ソフト両面から防災・減災対策を推進する。また、その際、住民の参画を進め、国及び県と連携し、効率的な地震対策を進める。
- 業務継続計画の策定などにより、業務継続性を図るものとする。また、実効性のある業務継続体制を確保するため、訓練等を通じた経験の蓄積や状況の変化に応じた体制の見直し、計画の改訂などを行う。
- 災害時に、地域において災害対策の拠点となる施設の整備に努めるものとする。

### 1 緊急消防援助隊の受援体制

市及び県は、消防組織の確立及び消防施設の強化拡充並びに消防相互応援体制の充実を図るとともに、実践的な訓練等を通じて、緊急消防援助隊の受援体制の整備に努めるものとする。

### 2 消防用施設の整備

市及び県は、所掌する業務に応じ、災害時に地域における消防活動の拠点となる以下の施設の整備に努めるものとする。

- ・消防団による避難誘導のための拠点施設
- ・緊急消防援助隊による救助活動のための拠点施設
- ・消防の用に供する自家発電設備又は自家給油設備
- ・地震災害時における救助活動等に係る機能強化を図るための消防用車両、資機材
- ・その他、地震災害等に対応するために特に必要と求められる消防用施設

### 3 火災の予防対策

市及び県は、危険物関係施設、工場、事業所等の管理者及び市民等の理解と協力を求め地震による火災を未然に防止するために、富士山南東消防本部と連携して次の取組を進める。

区 分	内 容
危険物施設 少量危険物取扱所	県が作成した「危険物製造所等の地震対策指針」等に基づき、必要な安全対策を関係事業所に周知し、その実施を促進する。
高圧ガス（LPガスを含む）施設	・高圧ガス貯槽に設けられている緊急遮断弁に感震装置を付設するよう指導するとともに、県が示す施設の耐震診断と補強の指針に基づき安全対策を促進する。 ・特に可燃性ガス、毒性ガスのボンベについては、転倒防止措置の励行を徹底する。
危険物施設、少量危険物取扱所	雑居ビル、建築物の地階及び地下街等における点検の強化、ガス漏れ警報設備の設置、通信体制の整備、ガス遮断装置の設置等を指導する。
LPガス消費設備	LPガス容器について鎖等による転倒防止措置を徹底するとともに、ボンベ直近において緊急遮断ができる装置の取付けを促進する。
研究室、実験室等薬品類を保有する施設	次のような自然発火が生じないよう予防措置を講ずることを指導する。 ア 可燃物と酸化剤の接触による発火

	イ 黄リン、金属ナトリウム等保護液の流出による発火 ウ 金属粉、カーバイト、その他浸水による発火
不特定多数の者が出入りする施設	旅館等不特定多数の者が出入りする施設における出火防止対策について特に指導を強化する。
石油ストーブ	対震自動遮断装置付き石油ストーブの使用の徹底を図る。
家庭用小型燃料タンク	燃料タンクは、転倒防止措置を施すよう指導する。
その他の出火危険物	アルコール類、ベンジン、塗料用溶剤、食用油等の貯蔵、保管について安全な措置を講ずるよう指導する。
防災関連設備等	住民等に対して消火器、ガスのマイコンメーター、感震ブレーカー等の普及に努めるものとする。

## 4 建築物等の耐震対策

区 分	内 容						
建築主等による耐震性の向上	<p>建築主等は次の事項を実施し、耐震性の向上を図る。</p> <p>(1) 軟弱地盤対策及び瓦等の落下物対策を講ずる。</p> <p>(2) 所有する建築物等の適正な維持管理に努め、必要に応じて耐震診断及び耐震改修を実施する。</p>						
市による耐震性の向上	<p>次の事項を実施し、耐震性の向上を図る。</p> <p>(1) 市民向けの「建築相談窓口」を設置し、耐震診断や耐震改修に対する必要性を啓発する。</p> <p>(2) 自主防災組織活動等と連携して耐震改修等の説明会等を実施する。</p> <p>(3) 建築主及び建築設計者等への下記についての啓発</p> <table border="1"> <tr> <td>新築建築物</td> <td>「静岡県建築基準条例」、「静岡県建築構造設計指針」及び「建築設備耐震設計・施工指針」等による設計及び工事管理等の徹底。</td> </tr> <tr> <td>既存建築物</td> <td>「木造住宅の耐震精密診断と補強方法」、「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準、改修設計指針」及び「耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断及び耐震改修指針」及び「静岡県建築構造設計指針」等による耐震診断及び耐震改修。</td> </tr> <tr> <td>建築設備</td> <td>「建築設備・昇降機耐震診断基準及び改修指針」等による既存の電気設備、空調設備、給排水設備等の耐震診断及び耐震改修。</td> </tr> </table> <p>(4) 耐震診断及び耐震改修に対する補助制度の活用促進 プロジェクト「TOUKA I-0」の総合支援事業により、昭和56年5月以前に建築した木造住宅・店舗・事務所ビル等の建築物及びブロック塀等の耐震化を図る。</p>	新築建築物	「静岡県建築基準条例」、「静岡県建築構造設計指針」及び「建築設備耐震設計・施工指針」等による設計及び工事管理等の徹底。	既存建築物	「木造住宅の耐震精密診断と補強方法」、「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準、改修設計指針」及び「耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断及び耐震改修指針」及び「静岡県建築構造設計指針」等による耐震診断及び耐震改修。	建築設備	「建築設備・昇降機耐震診断基準及び改修指針」等による既存の電気設備、空調設備、給排水設備等の耐震診断及び耐震改修。
新築建築物	「静岡県建築基準条例」、「静岡県建築構造設計指針」及び「建築設備耐震設計・施工指針」等による設計及び工事管理等の徹底。						
既存建築物	「木造住宅の耐震精密診断と補強方法」、「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準、改修設計指針」及び「耐震改修促進法のための既存鉄骨造建築物の耐震診断及び耐震改修指針」及び「静岡県建築構造設計指針」等による耐震診断及び耐震改修。						
建築設備	「建築設備・昇降機耐震診断基準及び改修指針」等による既存の電気設備、空調設備、給排水設備等の耐震診断及び耐震改修。						
公共建築物の耐震化	<ul style="list-style-type: none"> <li>市及び県は、所有する公共建築物について、耐震診断及び耐震改修の実施結果に基づいて耐震性能を把握するとともに、その公表に努める。</li> <li>防災拠点となる公共施設等の耐震化について、数値目標を設定するなど、計画的かつ効果的な実施に努めるものとする。</li> </ul>						
コンピューターの安全対策	市及び県は、自ら保有するコンピュータ・システムについて、「行政情報システムの安全対策に関するガイドライン」などの各種安全対策に基づき、引続き所要の対策を推進するとともに、コンピューターを扱う企業に対し、安全対策の実施についての啓発を行う。						
家具等の転倒防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>タンス、食器棚、ピアノ、テレビ、冷蔵庫等の転倒による事故防止のため、家具等の転倒防止について、市民に対する啓蒙指導をする。</li> <li>事務所などのスチール製の書棚、ロッカー等について、安全対策の実施を指導する。</li> </ul>						
ブロック塀等の倒壊防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>市有施設の既存のブロック塀等については、建築基準法第12条に基づく定期点検等の結果により、必要に応じて改善を行う。</li> <li>民間のブロック塀等について、自治会や自主防災組織の協力を得ながら、避難路などの道路沿いにある危険なブロック塀等を把握するための点検を実施するなど安全確保に</li> </ul>						

	向けた取組を進める。
ガラスの飛散防止	多数の人が通行する市街地の道路等に面する建物のガラス、家庭内のガラス戸棚等の安全対策の実施を指導する。
耐震化以外の命を守る対策	耐震化による対策が困難な住宅については、防災ベッドや耐震シェルターの設置などの、耐震化以外の命を守る対策の実施を周知する。
供給ラインの耐震化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフライン事業者及び施設管理者は、ライフライン関連施設の耐震性の確保を図るとともに、系統多重化、非常用電源の確保、拠点の分散等による代替性の確保を進めるものとする。</li> <li>・救護病院等の人命に関わる重要施設への供給ラインの重点的な耐震化を進める。</li> <li>・ライフライン収容施設としての共同溝・電線共同溝の整備等を図るものとする。</li> </ul>

## 5 被災建築物等に対する安全対策

区 分	内 容
応急危険度判定	市は、「静岡県地震対策推進条例」に基づき、応急危険度判定を円滑に実施するための体制を整備するとともに、住民に対する啓発を行う。
被災住宅危険度判定	市は、一般財団法人日本建築防災協会等が主催する「震災復旧のための震災建築物の被災度区分判定基準及び復旧技術指針講習会」の受講を奨励し、その名簿を活用する。
災害危険区域の指定	市は、災害から住民の生命を守るため、地震等により著しい危険が生ずるおそれがある区域を必要に応じて、建築基準法第39条に基づき災害危険区域に指定する。指定した場合には、速やかに住民に対し周知する。

## 6 地盤災害の予防対策

市は、地盤や地形の特性から生ずる災害の発生を事前に防止するため、市民に対して災害の防止について啓発及び指導を行い、必要な対策を講ずる。

区 分	内 容
山・がけ崩れ防止対策の推進	山・がけ崩れのおそれのある箇所について、地域住民へのハザードマップの配布やインターネットによる土砂災害警戒区域等の公表等により、当該地域の危険性を広報する。
軟弱地盤対策の推進	軟弱地盤が広く分布する地域においては、地震により大きな被害を受けやすいこと等を周知させるとともに、「木造住宅の簡易な軟弱地盤対策」等により必要な対策を講ずるよう指導する。
液状化対策の推進	<p>液状化被害の危険性を示した液状化ハザードマップを作成・公表するとともに、宅地の安全性の把握及び耐震化を実施するよう努めるものとする。</p> <p>地盤の液状化が予想される地域では、地震により大きな被害を受けやすいこと等を周知するとともに、液状化に関する知識の普及と液状化対策の必要性の周知に努める。</p>
大規模盛土造成地対策の推進	地震時において、滑動崩落の恐れがある大規模盛土造成地については、宅地の安全性の把握に努めるよう努めるよう周知する。

## 7 落下、倒壊危険物対策

○地震の発生により道路上及び道路周辺の構築物等が落下、倒壊することによる被害の予防、特に避難路、緊急輸送路を確保するため、当該構築物等の設置者、所有者、管理者等は、点検、補修、補強を行う。

○市は当該構築物等の設置者等に対し、必要な措置を実施するよう指導する。

物件名	措 置 等
歩道橋（横断用）	耐震診断等を行い、落橋防止を図り道路の安全確保に努める。
道路標識 交通信号機等	施設の点検を行い、速やかに改善し、危険の防止を図る。
枯死した街路樹等	樹木除去等適切な管理措置を講ずるよう努める。
電柱、街路灯	設置状態の点検を行い、倒壊等の防止を図る。
バス停上屋等	・新設については、安全性を厳密に審査する。

	・既存のものは、各施設管理者による点検、補強等を進める。
看板、広告物	・許可及び許可の更新に際し、安全管理の実施を許可条件とする。 ・許可の更新時期に至っていないものについては、関係者の協力を求め安全性の向上を図る。 ・設置者又は管理者は、許可条件を遵守するとともに、安全性の向上に努める。
ブロック塀 石塀	・既存のブロック塀、石塀のほとんどが危険であるので、改善、補強する。 ・新設するものについては、安全なブロック塀を設置する。
天井	脱落防止等の落下物対策を図る。
ガラス窓等	破損、落下により通行人に危害を及ぼさないよう補強する。
自動販売機	転倒により道路の通行及び安全上支障のないよう措置する。
樹木、煙突	倒壊等のおそれのあるもの、不要なものは除去に努める。

## 8 危険予想地域における災害の予防

### (1) 避難計画の策定

市は、下記の事項及び県が作成する「大規模地震対策『避難計画策定指針』」に留意して避難計画の策定に努めるものとする。

区 分	内 容
要避難地区の指定	市長は、第4次地震被害想定の結果等から判断して、市地震防災強化計画において明らかにした、山・がけ崩れ及び延焼火災の発生の危険が予想され、避難対策を推進する必要がある地域を要避難地区として指定する。
避難対象地区の指定	市長は、避難指示の対象とする地域として、要避難地区のうち延焼火災の発生の危険が予想される地域を除く、山・がけ崩れの発生の危険が予想される地域を避難対象地区として指定することができる。
避難地、避難路の指定	市長は、要避難地区の状況に応じ、住民の避難のための避難地、避難路等の指定を行う。 ア 避難対象地区の住民の避難のため、避難地を指定する。 イ 延焼火災発生時における避難のため、広域避難地、幹線避難路を指定する。また、必要に応じ一次避難地を指定する。
避難所の指定	市長は、要避難地区の状況に応じ、災害によって居住場所を確保できなくなった者の一時的な生活支援のため、避難所を指定する。

### (2) 平時に実施する災害予防措置

区 分	内 容	
避難誘導體制	市長は、要避難地区の住民に対し、危害の様相、情報伝達手段、情報伝達内容、避難地、避難路、避難施設等避難に関する留意すべき事項を周知するとともに、高齢者、要配慮者等を適切に避難誘導するため、地域住民、自主防災組織等の協力を得ながら、平時からこれらの者に係る避難誘導體制の整備に努めるものとする。	
山・がけ崩れ危険予想地域等	要避難地区については、次の予防措置を講ずる。	
	山・がけ崩れ危険予想地域図	市及び県は、協力して過去の山・がけ崩れ災害事例及び現況調査を参考に、山・がけ崩れ危険予想地域図を作成し、市民に適切な方法で広報するとともに危険箇所について巡回監視に努める。 資料編 資料 2-5
	住民への危険性の周知	市長は、地域の実情に即した方法により当該地域を避難対象地区として指定するとともに、当該地域の住民に対しその危険性の周知に努める。
地震発生時	市長は、当該地域において立ってられないほどの強い地震が起こった場合には、即刻危険箇所から離れ、避難施設や避難地へ避難する等地域の実情に応じ住民のとるべき行動について周知徹底に努める。	

## 9 被災者の救出活動対策

建物の倒壊により被災者等に対する救出活動が迅速的確に行えるよう、平時から次の措置を行う。

区 分	内 容
市	ア 自主防災組織、事業所等及び市民に対する、地域における相互扶助による救出活動についての意識啓発 イ 自主防災組織の救出活動用資機材の配備の推進 ウ 救出技術の教育、救出活動の指導 エ 大規模・特殊災害に対応するため、高度な技術・資機材を有する救助隊の整備の推進
自主防災組織、事業所等	ア 救出技術、救出活動の習得 イ 救出活動用の資機材の点検、及び訓練の実施 ウ 地域における自主防災組織と事業所等との連携体制の確立と訓練の実施

## 10 要配慮者の支援

高齢者、障害のある人、乳幼児、妊産婦、傷病者及び外国人等の要配慮者に対し、その障害の内容、程度、能力等に応じ、迅速で的確な支援を実施するための体制を整備することとし、その内容は、共通策編第2章第12節「要配慮者支援計画」に準ずる。

## 11 生活の確保

警戒宣言発令期間が長期化した場合及び地震が発生した場合の生活を確保するため、平時から次の措置を行う。

### (1) 食料及び生活必需品の確保

区 分	内 容
市	ア 非常持出ができない被災住民や旅行者等に対する食料の最低限の備蓄 イ 市内における緊急物資流通在庫調査の実施 ウ 流通在庫方式による確保が困難な物資の一部備蓄 エ 市内における緊急物資の調達及び配分計画の策定 オ 緊急物資の集積場所の選定及び運営管理等の検討 資料編 資料 7-1 カ 住民が実施する緊急物資確保対策の指導 キ 給食計画の策定
市民	ア 7日間程度の最低生活を確保できる緊急物資の備蓄 イ 避難が必要な場合に備え、最低限必要な食料、飲料水、日用品等の非常持出品の準備 ウ 自主防災組織等を通じての助け合い運動の推進 エ 緊急物資の共同備蓄の推進

### (2) 飲料水の確保

区 分	内 容
市	ア 復旧資材の備蓄を行う。 イ 他の地方公共団体からの応援給水を含む応急給水計画を作成する。 ウ 給水タンク、トラック、浄水機等応急給水資機材を整備する。 エ 市民及び自主防災組織に対し、貯水や応急給水について指導を行う。 オ 工事業者等との協力体制を確立する。 資料編 資料 5-9
市民	ア 家庭における貯水 (ア) 応急給水を円滑に実施するために、給水班の編成を準備しておく。 (イ) 貯水する水は、水道水等衛生的な水を用いる。 (ウ) 貯水に用いる容器は、衛生的で安全性が高く、地震動により水もれ破損しないものとする。 イ 自主防災組織を中心とする飲料水の確保

	<p>(ア) 貯水すべき水量は、1人1日3リットルを基準とし、世帯人数の7日分を最低目標とする。</p> <p>(イ) 受水槽に飲料水を確保する。</p> <p>(ウ) ろ水器、ポンプ、水槽、ポリタンク、次亜塩素酸ナトリウム、燃料等応急給水に必要なとされる資機材等を整備する。</p>
--	--

## (3) 燃料の確保

区 分	内 容
重要施設の管理者等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要施設の管理者その他の災害応急対策にかかる機関は、保有する施設・設備について、自家発電設備、燃料貯蔵設備等の整備を図り、十分な期間の発電が可能となるような燃料の備蓄等を行うよう努めるものとする。</li> <li>・なお、燃料の調達に当たっては、災害時だけでなく平時においても燃料供給が安定的に行われる環境を維持していくことの重要性に鑑み、災害時の燃料供給協定を締結している石油組合等の受注機会の増大に努めるものとする。資料編 資料 10-1-7</li> </ul>

## (4) 医療救護

区 分	内 容
市	<p>ア 直接地域住民の生命及び健康を守るため、「裾野市医療救護計画」に基づき、大規模災害時に地域住民の協力の下で、医療救護活動を実施する。</p> <p>イ 大規模災害時に医療救護活動が実現可能な救護病院を指定し、その機能が十分発揮できるよう、施設、設備、運営体制を整備する。</p> <p>ウ 救護班（DMA T等医療チーム）の要請、重症患者の広域医療搬送等の対応策を作成する。</p> <p>エ 医療救護用の資機材の備蓄及び調達の計画を作成する。</p> <p>オ 要救護者の搬送計画を作成する。</p> <p>カ 家庭救護の普及を図る。</p>
自主防災組織	<p>ア 応急救護活動を行う救出救護班を編成する。</p> <p>イ 市及び医療関係団体等の協力により応急処理技術等、救護に関する講習会を開催する。</p> <p>ウ 担架、救急医療セット等の応急救護用資機材を整備する。</p>
市民	<p>ア 軽度の傷病については、自分で手当てを行える程度の医薬品を準備する。</p> <p>イ 医療救護をうけるまでの応急手当等の技術を習得する。</p> <p>ウ 献血者登録に協力する。</p>

## (5) 防疫及び保健衛生活動

区 分	内 容
市	<p>ア し尿処理及び防疫実施計画を作成する。</p> <p>イ 簡易トイレ等の資機材を準備する。</p> <p>ウ 防疫用薬品の調達計画を作成する。</p> <p>エ 市民が行う防疫の指導をする。</p> <p>オ 避難所等における健康支援活動に係る体制整備を図る。</p>

## (6) 清掃活動

区 分	内 容
市	<p>ア 被害想定に基づき、災害廃棄物処理計画を定める。</p> <p>イ 市民及び自主防災組織に対し廃棄物の応急処理方法、廃棄物を処理するうえでの役割分担を明示し、協力を求める。</p>

## (7) 避難所の設備及び資機材の配備又は準備

○市は、避難所に必要な次の設備及び資機材をあらかじめ配備し、又は必要なときに直ちに配備できるよう準備しておくものとする。資料編 資料 7-10

○なお、高齢者、障がいのある人、乳幼児、妊産婦等の要配慮者にも配慮した配備又は準備に努めるものとする。

必要な設備及び資機材	
ア 通信機材	キ 物資の集積所
イ 放送設備	ク テント
ウ 照明設備（非常用発電機を含む。）	ケ 仮設トイレ、ポータブルトイレ、携帯トイレ
エ 炊出しに必要な機材及び燃料	コ 防疫用資機材
オ 給水用機材	サ 清掃用資機材
カ 救護所及び医療資機材	シ 工具類

## (8) 救援・救護のための標示

区 分	内 容
公共建築物・病院等の屋上への番号標識	市は、地震発生後のヘリコプター等による空からの救援・救護活動を迅速かつ的確に行うため、小学校等の公共建物及び指定した病院の屋上に番号を標示する。資料編 資料 7-7
孤立予想地域	市は、孤立するおそれのある地域について、地名標示シート・無線施設等の整備を実施、促進する。

## (9) 応急仮設住宅

区 分	内 容
供給体制の整備	市及び県は、災害に対する安全性に配慮しつつ、応急仮設住宅の用地に関し、建設可能な用地を把握するなど、あらかじめ供給体制を整備しておくものとする。
あっせん等体制の整備	市及び県は、災害時における被災者用の住居として利用可能な公営住宅や民間賃貸住宅の把握に努め、災害時に迅速にあっせんできるよう、あらかじめ体制を整備するものとする。

## 12 緊急輸送活動の確保

○道路管理者は、発災後の道路の障害物除去（路面変状の補修や迂回路の整備を含む）、応急復旧等に必要な人員、資機材等の確保について、道路管理者等で構成する協議会で策定した道路啓開等の計画も踏まえて建設業者等との協定の締結に努めるものとする。

○障害物除去、応急復旧等を迅速に行うため、あらかじめ応急復旧計画を立案するものとし、必要に応じてその見直しを行うものとする。

○災害時に緊急輸送ルートや避難路の通行を確保するため、安全性・信頼性の高い道路整備の他、障害となる可能性がある沿道建築物等の耐震化を促進する。

## 13 災害廃棄物の処理体制の整備

実施主体	内 容
市	ア 災害廃棄物処理計画を定める。 イ 災害時に発生する災害廃棄物の処理体制の整備及び仮集積場の確保に努める。 ウ 広域処理体制の確立に努めるものとする。

## 14 公共土木施設の応急復旧

市及び県は、それぞれの所管する施設、設備の被害状況の把握及び応急復旧を行うために、あらかじめ体制・資機材の整備に努める。特に、人命に関わる重要施設に対しては、早期に復旧できるよう体制を強化するものとする。

## 15 情報システムの整備

災害時において情報を迅速かつ的確に把握し、的確な防災対策が実施できるよう情報システムの高度化及び多重化を図る。

また、関係機関の利用の促進が円滑に実施されるよう情報のデータベース化、オンライン化、ネットワーク化について、その推進に努めるものとする。

## 16 緊急輸送用車両等の整備

災害時において緊急輸送及び情報収集を迅速に行うため、車両の整備を図る。

## 17 文化財等の耐震対策

文化財建築物、文化財所蔵施設の所有者等及び静岡県重要文化財等所有者連絡協議会は、その耐震性の向上並びに地震による人的被害を防止するための安全性の確保に努めるために必要な対策を講ずるものとする。

必要な対策
ア 文化財等の耐震措置の実施
イ 安全な公開方法、避難方法の設定
ウ 南海トラフ地震臨時情報発表時及び地震発生時における連絡体制の事前整備
エ 地震発生後の文化財等の被害状況調査及び関係機関への通報体制の整備
オ 文化財等の救出、復旧のための総合支援体制の整備
カ 地震発生後火災発生防止のための防災設備整備

## 第3章 地震防災施設緊急整備計画

「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律（昭和55年法律第63号）」に基づく地震対策緊急整備事業、「地震防災対策特別措置法（平成7年法律第111号）」に基づく地震防災緊急事業及びその他の地震対策事業により、地震防災上緊急に整備すべき施設等の整備の基本方針を示す。

### 第1節 地震防災施設整備基本方針

東海地震等による災害から市土並びに市民の生命、身体及び財産を保護するため、次の事項を目的に、地震防災上緊急に整備すべき施設等の整備を行い、地震に強いまちづくりを進める。

整備方針
(1) 多数の人的被害が発生するおそれのある地域における被害要因をあらかじめ除去又は軽減すること。
(2) 地震発生後の被災地域住民等の生活を確保すること。
(3) 地震発生後の混乱を緩和し、救援活動を中心とする災害応急対策を確保すること。

各施設等の整備にあたっての基本的な考え方は次のとおりであるが、各施設等の整備について相互の整合性を図り総合的に推進するものとする。

#### 1 防災業務施設の整備

区 分	内 容
消防用施設の整備及び 消火用水対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>地震の発生時に予想される火災から、人命、財産を守るため、多様な災害にも対応する消防ポンプ自動車、防火水槽、耐震性貯水槽、可搬式小型動力ポンプ等の消防用施設の整備を図る。</li> <li>河川、農業用水排水施設等の流水を消火活動に活用するなど多角的な水源の確保に必要な施設の整備を図る。</li> </ul>
通信施設及び情報 処理体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>南海トラフ地震臨時情報発表時及び災害発生時に予想される電話のふくそう、途絶に対応する情報体制の整備を図る。</li> <li>このため、防災関係機関が災害情報等を迅速かつ的確に把握し、防災対策を円滑に実施するために必要な無線通信施設を整備するとともに、災害情報等を瞬時に伝達するシステムを構築するよう努める。</li> <li>情報を集約、分析するための情報システムの高度化を図る。</li> <li>住民等の混乱を防止し、生活を支援するための情報提供システムの整備を図る。</li> </ul>

#### 2 地域の防災構造化

区 分	内 容
避難地の整備	既成市街地の区域及びその周辺の地域において、避難困難地区の解消、避難者の受入能力の増強等避難の阻害要因を解消するため、広域避難地の整備を図る。
避難路の整備	幹線輸送路等市長の指定する避難路について、所要避難時間の短縮、避難有効幅員の拡大、避難路の安全性の向上等避難の円滑化を図る。
消防活動用道路の整備	人口密集地等で人家が連たんし、それに比して道路が十分整備されていないため十分な消防活動を行うことができないおそれがある区域においては、道路の拡幅、直線化等により消防活動の円滑化を図る。
共同溝、電線共同溝等の 整備	災害時におけるライフライン機能の確保のため、共同溝、電線共同溝等の電線、水管等の公益物件を収容するための施設について、各事業者及び地元（市を含む）と調整を行いつつ整備を図る。
老朽住宅密集市街地	建物の倒壊や延焼火災の危険性が高い老朽住宅密集市街地の解消のため、市街地の面的

震防災対策	整備、建築物の耐震、不燃化等による地震に強い都市構造の形成を図る。
-------	-----------------------------------

### 3 緊急輸送路の整備

区 分	内 容
道路の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急輸送ルートの確保を早期に図るため、安全性、信頼性の高い道路網の整備を図るものとする。</li> <li>・地震発生時に予想される陸路の寸断に備え、緊急輸送の為にルートの多重化や代替性を考慮し、緊急輸送ネットワークを構築する。</li> <li>・県より指定されている、第1次緊急輸送路（高規格幹線道路、一般国道等広域な重要道路及びアクセス道路で、輸送の骨格をなす道路）、第2次緊急輸送路（第1次緊急輸送路と市役所及び重要な拠点を連絡する道路）及び第3次緊急輸送路（第1次及び第2次緊急輸送路と各支所とを結ぶ道路及びその他の道路）の整備について県に要望し、人員・物資の輸送に支障のないようにする。資料編 資料 6-1</li> </ul>
交通管制資機材の整備	災害時の交通の混乱を防止し、円滑な緊急輸送を実施するため、交通管制資機材の整備を図る。
ハリポートの整備	緊急輸送、救援活動等において空路を有効に利用するためにハリポート及びその付帯設備の整備を図る。

### 4 防災上重要な建物の整備

区 分	内 容
医療救護施設の整備	在院患者の安全と医療救護機能を維持するために必要な病院施設の耐震化の促進を図る。
社会福祉施設の整備	社会福祉施設の入所者等を地震災害から守るため施設の耐震化を図る。
学校等施設の整備	児童、生徒の生命の安全を確保するとともに、円滑な避難等の災害応急対策を実施するため、学校等の施設の耐震化を図る。
不特定多数が利用する公的建物の整備	教養文化施設、集会施設、スポーツ・レクリエーション施設等不特定多数の者が利用する公共施設の耐震化を図る。
庁舎、消防施設等の整備	庁舎、消防施設、緊急物資集積場所に指定されている施設等災害対策の拠点となる施設の耐震化を図る。
地域防災拠点施設	地域の防災活動を円滑にするため、又、平時には防災に関する広報・訓練を実施するための拠点となる施設の整備を図る。地震災害時に災害応急対策及び応急復旧工事の拠点として、自動車駐車場、交通広場等オープンスペースの整備を図る。

### 5 災害防止事業

区 分	内 容
山崩れ、地すべり等の防止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山崩れ、地すべり等土砂災害から被害を防止するため、防災施設を整備する。</li> <li>・ため池等の破壊及び貯水の溢水による被害を防止するために、耐震補強を行う。</li> </ul>

### 6 災害応急対策用施設等の整備

区 分	内 容
飲料水・電源等を確保するための施設又は設備の整備	飲料水を確保するため、配水地等上水道施設の耐震化並びに緊急連絡管、緊急遮断弁及び非常用電源の整備を図るとともに、応急対策、避難対策などの拠点施設等に飲料水・電源等を確保するための施設・設備、トイレ施設の整備を図る。
備蓄倉庫の整備	食料、生活必需品等の物資及び防災資機材の備蓄のため、備蓄倉庫の整備を図る。
応急救護設備等の整備	負傷者の応急救護等の救護機能を確保・強化するため、救護設備その他の応急的な措置に必要な設備又は資機材の整備を図る。
緊急輸送用車両等の整備	緊急輸送及び情報収集を迅速に行うため、車両の整備を図る。

## 第2節 地震対策緊急整備事業計画

東海地震等による災害から市民の生命、身体及び財産を保護するため、地震防災上緊急に整備すべき施設等について「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」に基づく地震対策緊急整備事業を実施する。事業の実施期間は昭和55年度から令和11年度までの50年間である。

## 第4章 南海トラフ地震臨時情報への対応

国の南海トラフ地震防災対策推進基本計画において、地方公共団体が南海トラフ地震防災対策推進計画で明示するものとされた南海トラフ地震臨時情報発表時の防災対応について、市は国の南海トラフ地震防災対策推進基本計画等の内容を踏まえ、また「南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討静岡県版ガイドライン」等を参考に、事前避難対象地域等の住民の避難に関する事項等を地域防災計画またはその他の計画に位置付けるものとする。

なお、防災関係機関の実施すべき防災対応についても、国の南海トラフ地震防災対策推進基本計画等の内容を踏まえて、本章において定める。

### I 南海トラフ地震臨時情報(調査中)が発表された場合における災害応急対策に係る措置

#### 第1節 南海トラフ地震臨時情報(調査中)の伝達等

- 市は、南海トラフ地震臨時情報(調査中)が発表された場合、「裾野市災害対策本部運営要領」に基づき「情報収集体制」(当初、危機管理課と秘書広報課)をとり、関係所属による情報収集及び連絡活動を行うものとする。また、気象庁の記者会見等により、最初の地震についての詳細等が判明した時点で、「事前配備体制」に移行する。
- 関係所属の組織体制、情報の収集・伝達に係る役割分担は、「共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第2節 組織計画・第4節 通信情報計画」及び「地震対策編 別紙 地震防災応急対策 第1節 防災関係機関の活動」に準ずる。

区 分	内 容
南海トラフ地震臨時情報 (調査中)	【情報収集体制】(当初、危機管理課と秘書広報課) 関係所属による、情報収集及び連絡活動を主とした体制をとる。 【事前配備体制】 気象庁記者会見の状況により体制をとる。

### II 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表された場合における災害応急対策に係る措置

#### 第1節 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の伝達等

市は、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表された場合、「裾野市災害対策本部運営要領」に基づき「事前配備体制」をとり、事態の推移を踏まえ、国・県の状況把握(情報収集)により、以下のとおり関係所属間で情報収集及び連絡活動を行うものとする。

関係所属における情報の収集・伝達に係る役割分担は、「共通対策編 第2章 災害予防計画 第1節 通信施設等整備計画、第3章 災害応急対策計画 第2節 組織計画・第4節通信情報計画」及び「地震対策編 別紙 地震防災応急対策 第1節 防災関係機関の活動」に準ずる。

区 分	内 容
南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)発表時	【事前配備体制】 事態の推移を踏まえ、関係所属間で情報収集及び連絡活動を行い、警戒活動等を実施する体制をとる。 その他に次の措置を講ずる。 ・情報の伝達 ・「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)発表時」に記載しているイ～カの措置については、速やかに対応できるよう準備・検討等を開始する。 ※本体制は1週間継続することから、一定規模参集後、ローテーションによる体制を構築する。

## 第2節 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表された後の周知

市は県と連携し、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の内容、交通に関する情報、ライフラインに関する情報、生活関連情報など住民に密接に関係のある事項について周知するものとする。

市は、地域住民に対し、日頃からの地震への備えを再確認する等、防災対応をとる旨を呼びかけるものとする。

周知及び呼びかけの方法は、「共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第2節 組織計画・第4節 通信情報計画・第5節 災害広報計画」及び「地震対策編 別紙 地震防災応急対策 第2節 情報活動・第3節 広報活動」に準ずる。

## 第3節 災害応急対策をとるべき期間等

市は、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上M8.0未満又はプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震(ただし、太平洋プレートの沈み込みに伴う震源が深い地震は除く)が発生するケースの場合は、1週間、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界面で通常と異なるゆっくりすべりが観測されたケースの場合はプレート境界面で通常と異なるゆっくりすべりの変化が収まってから、変化していた期間と概ね同程度の期間が経過するまでの期間、後発地震に対して注意する措置をとるものとする。

## 第4節 市のとるべき措置

市は県と連携し、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)が発表された場合において、地域住民等に対し、日頃からの地震への備えを再確認する他すぐに避難を行える態勢を維持する等の防災対応をとる旨を呼びかけるものとし、必要により避難所を開設する。(自主避難の対応)

市は、施設・設備等の点検等日頃からの地震への備えを再確認するとともに、市民等の避難誘導等の対応を検討・準備する。

## Ⅲ 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)が発表された場合における災害応急対策に係る措置

### 第1節 南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)の伝達、災害対策本部等の設置等

市は、南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)が発表された場合、「裾野市災害対策本部運営要領」に基づき「裾野市災害対策本部」を設置し、全庁的な情報共有体制のもと、大規模な災害の発生に備える体制をとるものとする。

市の情報共有体制、組織体制、情報伝達方法は、「共通対策編 第2章 災害予防計画 第1節 通信施設等整備改良計画・第3章 災害応急対策計画 第2節 組織計画・第4節 通信情報計画・第5節 災害広報計画」及び「地震対策編 第4章 地震防災応急対策 第2節 情報活動・第3節 広報活動」に準ずる。

区 分	内 容
南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)発表時	<p>災害対策本部本部長である市長の指揮のもと、全庁的な情報共有及び大規模な災害の発生に備える体制をとる。</p> <p>その他に次の措置を講ずる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 情報の伝達</li> <li>イ 必要な事業を継続するための措置</li> <li>ウ 日頃からの地震への備えの再確認等警戒レベルを上げる措置</li> <li>エ 施設及び設備等の点検</li> <li>オ 地震に備えて普段以上に警戒する措置</li> <li>カ 防災対応実施要員の確保等</li> <li>キ 職員等の安全確保</li> </ul> <p>※本体制は1週間継続することから、一定規模参集後にローテーションによる体制を構築する。</p>

## 第2節 南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された後の周知

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）の内容、交通に関する情報、ライフラインに関する情報、生活関連情報など住民に密接に関係のある事項について周知するものとする。

市は、地域住民等に対し、日頃からの地震への備えを再確認する等防災対応をとる旨を呼びかけるものとする。

周知及び呼びかけの方法は、「共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第2節 組織計画・第4節 通信情報計画・第5節 災害広報計画」及び「地震対策編 第4-2章 地震防災応急対策 第2節 情報活動・第3節 広報活動」に準ずる。

## 第3節 災害応急対策をとるべき期間等

市は、南海トラフ沿いの想定震源域内のプレート境界におけるM8.0以上の地震の発生から1週間、後発地震（南海トラフの想定震源域及びその周辺で速報的に解析されたM6.8以上程度以上の地震が発生、またはプレート境界面で通常とは異なるゆっくりすべり等を観測した後に発生する可能性が平時に比べて相対的に高まったと評価された南海トラフ地震）に対して警戒する措置をとるものとする。また、当該期間経過後1週間、後発地震に対して注意する措置をとるものとする。

## 第4節 避難対策等

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表され、国から指示が発せられた場合に、直ちに避難対策等を実施するため、事前避難対象地域内の住民等への避難の呼びかけ及び事前避難先等についてあらかじめ定める。

事前避難対象地域については、地域の実状等を踏まえ、以下の2種類に区分する。

### 【住民事前避難対象地域】

事前避難対象地域のうち、全ての住民等が後発地震の発生に備え1週間避難を継続すべき地域

### 【高齢者等事前避難対象地域】

事前避難対象地域のうち、要配慮者に限り後発地震に備え1週間避難を継続すべき地域

市は、高齢者等事前避難対象地域内の要配慮者等及び住民事前避難対象地域内の地域住民等に対し、避難場所、避難路、避難方法及び家族との連絡方法等を平時から確認しておき、国からの指示が発せられた場合の備えに万全を期するよう努める旨を周知する。

市は、高齢者等事前避難対象地域内の要配慮者等以外の地域住民等及び事前避難対象地域外の地域住民等に対し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された際に、日頃からの地震への備えを再確認する等防災対応をとる旨を呼びかける。

## 1 地域住民等の事前避難行動等

### (1) 基本方針

市長は、地域の特性を踏まえて定めた事前避難対象地域内の住民等に対して、後発地震に備え1週間、事前避難を継続するよう呼びかけるものとする。

### (2) 事前避難対象地域の設定

市は、事前避難対象地域が定まるまでの間、大規模地震対策特別措置法第9条に基づく警戒宣言時に避難指示の対象とした地域（山・がけ崩れを除く）を事前避難対象地域に暫定的に位置付けることができる。

裾野市では、事前避難対象地域を設定しないため、土砂災害特別警戒区域等の住民等が、事前避難指示により自主的に避難した場合の対応を実施する。

### (3) 避難指示等の基準

市長は、国から指示が発せられた後、土砂災害特別警戒区域等の住民等に対して、以下のとおり避難指示等を行うものとする。なお、夜間（就寝時）のみを対象とした事前避難対象地域に対しては、夜間のみを対象とした避難指示等を発令

することも可能とする。

- ・住民事前避難対象地域：避難指示
- ・高齢者等事前避難対象地域：高齢者等避難

#### (4) 避難指示等の伝達方法

市長は、避難指示等を発令したときは、直ちに事前避難対象地域内の住民等に対して、防災行政無線等により広報し、その旨の周知徹底を図る。

#### (5) 避難に関する情報の平時からの周知

南海トラフ地震臨時情報が発表された際に、社会が混乱することなく防災対応を行うためには、住民等が、事前に南海トラフ地震臨時情報そのものを理解している必要がある。

このため、市はあらゆる機会を捉え、南海トラフ地震臨時情報の内容や情報が発表された場合にとるべき以下の事項等について広報に努め、住民等が正しく理解し、あらかじめ検討した対応を確実に実施できるよう努める。

- ア 事前避難対象地域の地区名等
- イ 家具の固定、備蓄物資の確認、非常持出品の確認等の日頃からの備えの再確認
- ウ 安全な避難場所・避難経路等の確認
- エ 避難行動における注意事項

#### (6) 避難計画の作成

市は、事前避難対象地域の住民等が一定期間避難生活するための避難所の選定、避難経路の指定等の避難実施に係る計画をあらかじめ定めるものとする。

## 2 避難所の運営

### (1) 基本方針

事前避難先は、避難を必要とする住民の親類・知人宅等を基本とするが、市は、親類・知人宅等への避難が困難な住民等のために、あらかじめ定めた施設に避難所を設置するものとする。

また、市は、住民等と避難所の運営方法などについて、あらかじめ具体的に検討・調整するものとする。

### (2) 避難所の設置及び避難生活

- ア 避難生活者
  - ・事前避難対象地域の住民等のうち、親類・知人宅等への避難が困難な住民等とする。
- イ 設置場所
  - ・市があらかじめ定めた施設に設置するものとする。
- ウ 設置期間
  - ・国が「南海トラフ地震防災対策推進基本計画」において、後発地震に備え避難を継続すべきとした1週間とする。
- エ 避難所の運営
  - ・避難者が自ら行うことを基本とし、市は、あらかじめ避難所を運営する際の体制や役割等について、住民等と検討・調整を行うものとする。

## 第5節 消防機関等の活動

市は、「南海トラフ地震臨時情報」（巨大地震警戒）が発表された場合において、消防機関・消防団及び水防団が出火及び混乱の防止について、次の事項を重点として、その対策を定めるものとする。

- ・事前避難対象地域における地域住民等の避難誘導、避難路の確保

## 第6節 警備対策

市は警察と連携し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合において、犯罪及び混乱の防止等に関

して、次の事項を重点として、措置をとるものとする。

- (1) 正確な情報の収集及び伝達
- (2) 不法事案等の予防及び取締り
- (3) 地域防犯団体、警備業者等の行う民間防犯活動に対する指導・支援

## 第7節 水道、電気、ガス、通信、放送関係

### 1 水道

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合において、必要な飲料水を供給する体制を確保するものとする。

### 2 電気

電気事業者は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合において、必要な電力を供給する体制を確保するものとする。

### 3 ガス

ガス事業者は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合において、必要なガスを供給する体制を確保するものとする。

### 4 通信

電気通信事業者は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合において、通信の維持に関する必要な体制の確保に加え、災害用伝言サービスの運用、周知等の措置をとるものとする。

### 5 放送

放送事業者は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）の正確かつ迅速な報道に努めるとともに、後発地震の発生に備えて、事前に関係機関等と密接な連携をとり、実態に即した体制の整備を図るものとする。

また、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合には、関係機関と協力して、地域住民等に対して冷静な対応を呼びかけるとともに、後発地震に備えて、交通に関する情報、ライフラインに関する情報、生活関連情報、火災防止等の被害軽減のための取組みなど、地域住民等が防災行動等をとるために必要な情報の提供に努めるものとする。なお、情報の提供に当たっては、聴覚障害のある人等の情報入手に資するよう、テレビにおける字幕等の活用に努めるものとする。

## 第8節 金融

金融機関は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合及び後発地震の発生に備え、金融業務の円滑な遂行を確保するための要員の配置計画等、事前の準備措置としてとるべき内容を定めておくものとする。

## 第9節 交通

### 1 道路

市は警察と連携し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合の運転者のとるべき行動について、地域住民等に周知するものとする。

## 第10節 市自らが管理等を行う施設等に関する対策

### 1 防災上重要な施設に対する措置

防災上重要な施設について、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合に、市が行う点検、整備等について以下のとおり定め、防災対応の円滑な実施を確保する

区 分	内 容
河川	河川・水門について、閉鎖状況を確認し、閉鎖手段を確認する。 ・施設の管理上必要な操作、非常用発電装置の準備、点検その他の措置を講ずる。 ・管理システム、防災システム等の操作手順を確認し、必要な点検を実施する。
ため池及び用水路	ため池及び農業用水路について、あらかじめ定めた者に対して所要の措置に関する情報連絡を行い、必要に応じてため池からの放流、用水路の断水又は減水を行えるよう、施設点検や操作方法の確認等の準備的措置を講ずる。
道路	南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合の交通対策等の情報についてあらかじめ情報提供するものとする。
砂防、地すべり、急傾斜地、治山等	・土砂災害監視システム等による監視体制を整える。また、土砂災害発生時における迅速な情報収集・伝達のための国・県等の連絡体制を整える。 ・巨大地震発生時の土砂災害警戒情報の運用について、静岡地方气象台と確認する。
工事中の公共施設、建築物、その他	地震関連情報の収集に努め、状況に応じて工事中断等の措置をとるものとし、これに伴う必要な補強・落下防止等の保全措置を講ずる。
本庁、支所及びその他災害応急対策上重要な庁舎	本庁、支所及びその他災害応急対策上重要な庁舎について、非常用発電装置の確認、落下倒壊防止措置、食料及び燃料の準備、飲料水の緊急貯水等の措置を行う。
水道水供給施設及び工業用水道施設	溢水等による災害の予防措置の準備を行いながら送水を継続する。

### 2 不特定かつ多数の者が出入りする施設に対する措置

市が管理し、不特定かつ多数の者が出入りする施設について、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合に、市が行う防災対応を以下のとおり定め、防災対応の円滑な実施を確保する。

なお、市以外が管理する施設等の南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合の防災対応については、下記内容を参考にしてそれぞれ施設の管理者が定めるものとする。

区 分	内 容
各施設が共通して定める事項	ア 情報の伝達 イ 必要な事業を継続するための措置 ウ 日頃からの地震への備えの再確認等警戒レベルを上げる措置 エ 施設及び設備等の点検 オ 地震に備えて普段以上に警戒する措置 カ 防災対応実施要員の確保等 キ 職員等の安全確保

施設の特性に応じた主要な個別事項	病院	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震性等、建物の安全が確保されている施設においては、原則、営業を継続するものとする。</li> <li>・また、入院患者等に対し、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）等を伝達する方法をあらかじめ定める。</li> <li>・入院患者等の状況に応じて、安全確保に向けた転院や院内の上層階への垂直避難等の準備を検討する。</li> <li>・入院患者等に対する避難誘導の方法及び避難誘導実施責任者等、安全確保のための措置をあらかじめ定める</li> </ul>
	学校	<p>児童生徒等の安全確保のために必要な具体的措置について</p> <p>ア 高齢者等事前避難対象地域に位置する幼稚園等、小学校の1週間程度の休校措置。その際、児童生徒等が在校中の場合は、安全が確保できる場所への避難誘導し、状況に応じて帰宅又は家族等への引き渡しを実施する。</p> <p>イ 住民事前避難対象地域に位置する幼稚園等、小学校、中学校、高等学校等の1週間程度の休校措置。</p> <p>その際、児童生徒等が在校中の場合は、安全が確保できる場所への避難誘導し、状況に応じて帰宅又は家族等への引き渡しを実施する。</p> <p>ウ 上記事前避難対象地域に指定されていない地域にある学校については、避難場所、避難経路、登下校路の安全確認など後発地震に備えた再確認を実施する。</p>
	社会福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の伝達や避難等に当たって特に配慮を必要とする者が入所又は利用している場合が多いことから、入所者等の保護及び保護者への引き継ぎの方法については、施設の種類や性格及び個々の施設の安全性を十分に考慮して、その内容を定めるものとする。</li> </ul> <p>なお、要配慮者の事前避難に当たっては、避難先までの移動や、生活環境の変化などにより体調を崩すことも想定されることから、社会福祉施設に入所している要配慮者については、浸水しない上層階が同一施設にあり、かつ安全が確保される場合は垂直避難も検討するよう努める。</p>

## 第11節 滞留旅客等に対する措置

市は、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）が発表された場合における滞留旅客等の保護等のため、避難所の設置や帰宅支援等必要な対策を定めるものとする。

市以外の滞留旅客等の避難誘導及び保護すべき機関においては、滞留旅客等に対する具体的な避難誘導、保護並びに食料等のあっせん、市が実施する活動との連携体制等の措置を行うものとする。

## 第5章 災害応急対策

地震災害が発生した場合の市及び防災関係機関、事業所及び市民等の災害応急対策について定める。

海溝型巨大地震が発生した場合、甚大かつ広域的な被害が予想されると同時に、東日本大震災で見られたような広域的な停電や断水の発生、防災拠点の被災、市町等の行政機能の喪失、交通インフラの被災による応急対策活動への支障の発生、ガソリン等の燃料を含む各種物資の著しい不足などを含め、事前の想定を越える事態が発生するおそれがあることに十分に留意しつつ、災害応急対策を行う必要がある。

### 第1節 防災関係機関の活動

地震発生時の市及び防災関係機関の災害応急対策の組織、要員の確保及び活動の概要並びに警戒本部との関連について定める。

#### 1 市

区 分		内 容
市 災 害 対 策 本 部	市災害対策本部の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>市長は、地震が発生し災害応急対策を実施する必要があると認めたときは、裾野市災害対策本部（以下「市災害対策本部」という。）を設置する。資料編 資料 1-3・1-4</li> <li>警戒本部から市災害対策本部への移行にあたっては、事務の継続性の確保に配慮するものとする。</li> </ul>
	組織及び所掌事務	<ul style="list-style-type: none"> <li>市災害対策本部の編成及び運営は、裾野市地域防災計画（共通対策編）の定めに従う。</li> <li>市災害対策本部が所掌する事務の主なものは次のとおりとし、「裾野市災害時行動マニュアル」に別に定める。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 地震情報その他災害応急対策に必要な情報の収集及び伝達</li> <li>イ 災害応急対策の実施又は民心安定上必要な広報</li> <li>ウ 消防、水防その他の応急措置</li> <li>エ 「南海トラフ地震における静岡県広域受援計画」に基づく応援部隊等の受入れ</li> <li>オ 被災者の救助、救護その他の保護</li> <li>カ 施設及び設備の応急復旧</li> <li>キ 防疫その他の保健衛生</li> <li>ク 避難指示又は警戒区域の設定</li> <li>ケ 緊急輸送の実施</li> <li>コ 被災者に対する食料、飲料水及び日用品の確保、配給</li> <li>サ 県東部方面本部への要請・報告等県との災害応急対策の連携</li> <li>シ 自主防災組織との連携及び指導</li> <li>ス ボランティアの受入れ</li> </ul> </li> </ul>
職員の動員及び配備		<ul style="list-style-type: none"> <li>市災害対策本部が設置されたときは、本部構成員は直ちに本部室に集合して災害応急対策に当たる。</li> <li>市災害対策本部の各部長・班長は、直ちに災害応急対策に当たる。</li> <li>各支部及び上記以外の職員は所定の場所へ速やかに参集し、班長の指示の下に災害応急対策に当たる。</li> <li>災害により登庁できない職員は、登庁可能となるまでの間、最寄りの広域避難地に参集し、班長の指示の下に災害応急対策に当たる。</li> </ul>
消 防 機 関	富士山南東消防本部裾野消防署	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 被害状況等に関する情報の収集、伝達</li> <li>イ 消防活動、水防活動及び救助活動</li> <li>ウ 地域住民等への避難指示の伝達</li> <li>エ 火災予防の広報</li> </ul>

	消防団	ア 被害状況等に関する情報の収集と伝達 イ 消火活動、水防活動及び救助活動 ウ 避難地の安全確保及び避難路の確保 エ 地域住民等の避難地への誘導 オ 危険区域からの避難の確認 カ 自主防災組織との連携、指導、支援
--	-----	---

## 2 防災関係機関

(共通対策編第1章総則第1節「防災上重要な機関の処理すべき事務又は業務の大綱」に準ずる。)

### 第2節 情報活動

(共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第4節「通信情報計画」に準ずる。)

### 第3節 広報活動

(共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第5節「災害広報計画」に準ずる。)

### 第4節 緊急輸送活動

(共通対策編第3章災害応急対策計画第19節「輸送計画」に準ずる。)

### 第5節 広域応援要請及び受援計画

(共通対策編第3章災害応急対策計画第3節「動員計画」に準ずる。)

なお、南海トラフ地震発生時における広域応援の受入は、別に定める「南海トラフ地震における静岡県広域受援計画」による。

相互応援協定の締結に当たっては、大規模な地震災害等による同時被災を避ける観点から、遠方に所在する地方公共団体との間の協定締結も考慮する。

### 第6節 災害の拡大及び二次災害防止活動

#### 1 消防活動

(共通対策編第3章災害応急対策計画第23節「消防計画」に準ずる。)

#### 2 水防活動

市水防計画の定めるところによる。

#### 3 人命の救出活動

(共通対策編第3章災害応急対策計画第7節「避難救出計画」に準ずる。)

#### 4 被災建築物等に対する安全対策

(共通対策編第3章災害応急対策計画第12節「被災建築物等に対する安全対策、災害危険区域の指定、応急仮設住宅及び住宅応急修理計画」に準ずる。)

#### 5 災害危険区域の指定

(共通対策編第3章災害応急対策計画第12節「被災建築物等に対する安全対策、災害危険区域の指定、応急仮設住宅及び住宅応急修理計画」に準ずる。)

## 第7節 避難活動

(共通対策編第3章災害応急対策計画第7節「避難救出計画」に準ずる。)

## 第8節 社会秩序を維持する活動

(共通対策編 第3章 災害応急対策計画 第18節「社会秩序維持計画」に準ずる。)

## 第9節 交通の確保対策

(共通対策編第3章災害応急対策計画第20節「交通応急対策計画」に準ずる。)

## 第10節 地域への救援活動

### 1 食料及び生活必需品等の緊急物資の確保

(共通対策編第3章災害応急対策計画第9節「食料供給計画」及び第10節「衣料、生活必需品、その他の物資及び燃料供給計画」に準ずる。)

### 2 給水活動

(共通対策編第3章災害応急対策計画第11節「給水計画」に準ずる。)

### 3 燃料の確保

(共通対策編第3章災害応急対策計画第10節「衣料、生活必需品その他の物資及び燃料供給計画」に準ずる。)

### 4 医療救護活動

(共通対策編第3章災害応急対策計画第13節「医療・助産計画」に準ずる。)

### 5 し尿処理

(共通対策編第3章災害応急対策計画第15節「清掃及び災害廃棄物処理計画」に準ずる。)

### 6 廃棄物(生活系)処理

(共通対策編第3章災害応急対策計画第15節「清掃及び災害廃棄物処理計画」に準ずる。)

### 7 災害廃棄物処理

(共通対策編第3章災害応急対策計画第15節「清掃及び災害廃棄物処理計画」に準ずる。)

### 8 防疫活動

(共通対策編第3章災害応急対策計画第14節「防疫計画」に準ずる。)

### 9 遺体の搜索及び措置

(共通対策編第3章災害応急対策計画第16節「遺体の搜索及び措置埋葬計画」に準ずる。)

### 10 応急住宅の確保及び管理運営

(共通対策編第3章災害応急対策計画第12節「被災建築物等に対する安全対策、災害危険区域の指定、応急仮設住宅及び住宅応急修理計画」に準ずる。)

### 11 ボランティア活動への支援

(共通対策編第3章災害応急対策計画第25節「ボランティア活動支援計画」に準ずる。)

## 第11節 学校における災害応急対策及び応急教育

(共通対策編第3章災害応急対策計画第21節「応急教育計画」に準ずる。)

## 第12節 被災者生活再建等への支援

(共通対策編第3章災害応急対策計画第22節「社会福祉計画」に準ずる。)

## 第13節 市有施設及び設備等の対策

(共通対策編第3章災害応急対策計画第33節「市有施設及び設備等の対策」に準ずる。)

## 第14節 防災関係機関の講ずる災害応急対策

市民生活に密接な関係にある防災関係機関が実施する災害応急対策の概要を示す。

区分	内容
上水道	ア 被害状況を調査し、状況に応じて配水を停止する等、必要な措置を講ずる。 イ 応急復旧に必要な資機材及び車両を確保し、応急復旧工事を行う。 ウ 配管の仮設等による応急給水に努める。 エ 医療機関、避難所等への優先的な応急給水に努める。
下水道	ア 緊急度の高い施設から順次重点的に調査点検を実施する。 イ 応急復旧に対する緊急度、工法や復旧資器材、作業員の確保に努める。 ウ 速やかに管路施設の復旧やマンホール等からの溢水の排除を行う。 エ 汚水処理場を管理する県との連絡を密に行う。
電力 (東京電力パワーグリッド株式会社)	ア 電力供給設備に支障のない限り供給を継続するが、状況によって危険防止のための送電を停止する。 イ 電力が不足する場合は、電力広域的運営推進機関と協調し、電力供給の確保に努めると共に、必要に応じて他電力会社へ資機材や要員派遣等の依頼を行う。 ウ 応急復旧に必要な資機材及び車両の確保を行う。 エ 電力の供給再開までに長期間を要する場合は、緊急に電力を供給すべきところから必要な措置を講じ、応急復旧工事を行う。
ガス	ア 都市ガスは、ガス事業者が設置する地震計により、各社が定める停止基準値を超えた場合は、ガスの供給を停止する。 イ 都市ガス及びLPガスは、安全が確認されるまで使用しないよう広報する。 ウ 都市ガス及びLPガス施設の安全点検を実施する。 エ 都市ガスは供給の安全が確認された区域から順次供給を再開する。 オ 避難所等に臨時に必要な燃料供給を行う。 カ 応急復旧に必要な資機材及び車両を確保し、応急復旧工事を行う。

通信	NTT西日本株式会社 沼津支店 NTT東日本株式会社 小田原支店	<p>ア 通信のふくそう緩和及び重要通信を確保するため、次により必要な措置をとる。</p> <p>(ア) 臨時回線の設定をとるほか、必要に応じ災害応急復旧用無線電話等を運用し、臨時公衆電話を設置する。</p> <p>(イ) 通信の疎通が著しく困難となり、需要通信を確保するため必要があるときは、一般利用の制限等の措置をとるほか、災害用伝言ダイヤル171、災害用伝言板web171サービスを提供する。</p> <p>(ウ) 防災関係機関が設置する通信網と連携協力する。</p> <p>イ 応急復旧に必要な資機材及び車両の確保を行う。</p> <p>ウ 通信の早期疎通を図るため工事業者に出動を求める等必要な措置を講じ応急復旧工事を行う。</p>
	株式会社NTTド コモ東海支社(静岡 支店)	<p>ア 通信のふくそう緩和及び重要通信を確保するため、次により必要な措置をとる。</p> <p>(ア) 臨時回線の設定をとるほか、必要に応じ携帯電話の貸出しに努める。</p> <p>(イ) 通信の疎通が著しく困難となり、重要通信を確保するため必要がある時は一般利用の制限等の措置をとるほか、災害用伝言板を提供する。</p> <p>イ 応急復旧に必要な資機材及び車両の確保を行う。</p> <p>ウ 通信の早期疎通を図るために工事業者に出動を求める等必要な措置を講じ応急復旧工事を行う。</p>
放送 (日本放送協会、民間放送会社)	<p>ア 放送機器の障害及び中継回線の途絶等により放送が不可能となった場合は、常置以外の必要機器を仮設し、無線その他の中継回線を利用し放送の継続確保を図る。</p> <p>イ 応急復旧に必要な資機材の確保及び機器、設備等の機能回復の措置を講ずる。</p> <p>ウ 臨時ニュース、特別番組の編成等、各メディアを有効に活用し、地震情報等、被害状況、復旧状況、生活関連情報の正確、迅速な放送に努め、社会的混乱の防止を図る。</p>	
市中金融	<p>ア 被災金融機関は営業の早期再開に必要な措置を講ずる。</p> <p>イ 災害復旧に必要な資金を融資するための迅速適切な措置を講ずる。</p>	
鉄道 (東海旅客鉄道株式会社)	<p>ア 不通区間が生じた場合は、自動車等による代替輸送の確保に努める。</p> <p>イ 応急復旧に必要な資機材及び車両の確保を図る。</p> <p>ウ 早期運転再開を期するため、工事業者に出動を求める等必要な措置を講じ応急復旧工事を行う。</p>	
道路	<p>ア 道路管理者は、他の道路管理者その他の関係機関と相互に連携し道路施設の点検巡視を行い被害箇所を迅速に把握する。</p> <p>イ 道路管理者は、他の道路管理者その他の関係機関と相互に協力し緊急輸送路の早期確保に努める。</p> <p>ウ 道路管理者は、道路の応急復旧のため建設業協会等の協力を求め、必要な措置を講ずる。</p> <p>エ 道路管理者は、交通信号機が倒壊、断線等により機能を失った場合は裾野警察署に対して復旧工事の実施を要請する。</p>	

## 第15節 地震防災応急計画を作成すべき施設・事業所の災害応急対策

地震防災応急計画を作成すべき者が講ずる災害応急対策の概要を示す。

計画に定める必要のある災害応急の主な内容は、別紙に定めるものの他、次のとおりとするが、平時対策との整合性の確保に留意する。

### 1 各施設・事業所に共通する事項

○各施設・事業所に共通する事項として、次の点に留意する。

共通事項	(1) 災害応急対策を実施する組織の確立に関する事項 ア 災害応急対策の実施に必要な防災要員及び組織体制 イ 防災要員の参集連絡方法、参集手段等 (2) 出火防止措置、消防用施設等の点検 (3) その他必要な災害応急対策に関する事項
------	--

## 2 各施設・事業所の計画において定める個別の事項

各施設又は事業所の特殊性、公益性、地理的特性等を考慮の上、次の点に留意して計画に定める。

施設・事業所	計画において定める個別の事項						
上水道病院・診療所、百貨店、スーパー等	ア 患者、利用者、顧客等への情報伝達手段を確保する。 イ 地震に関する情報並びに避難地、避難路に関する情報を的確に伝達し、適切な避難誘導を実施する。 ウ 病院、診療所においては、移動が不可能又は困難な患者の安全確保に必要な措置等に配慮する。						
石油類、高圧ガス、毒物・劇物等の製造、貯蔵、処理又は取り扱いを行う施設	火災、流出、爆発、漏洩その他周辺地域に対して影響を与える現象の発生を防止するために必要な緊急点検・巡視の実施、充填作業、移し替え作業等の停止、落下・転倒その他施設の損壊防止等のために必要な応急的保安措置を実施する。						
鉄道事業その一般旅客運送に関する事業	利用者、顧客等への情報伝達手段を確保する。						
学校・幼稚園・保育所、社会福祉施設	避難地、避難路、避難誘導方法等を定める。保護を必要とする生徒等の保護、移動不可能又は困難な避難行動要支援者の安全確保に必要な措置等に配慮する。						
水道、電気及びガス事業	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">水道</td> <td>水道管の破損等による二次災害を防止し、軽減するための措置を講ずる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">電気</td> <td>火災等の二次災害を防止、軽減するため、ブレーカーの操作等について利用者への広報に配慮する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">ガス</td> <td>火災等の二次災害を防止、軽減するため、ガス栓の閉止等の措置についての利用者への広報に配慮する。</td> </tr> </table>	水道	水道管の破損等による二次災害を防止し、軽減するための措置を講ずる。	電気	火災等の二次災害を防止、軽減するため、ブレーカーの操作等について利用者への広報に配慮する。	ガス	火災等の二次災害を防止、軽減するため、ガス栓の閉止等の措置についての利用者への広報に配慮する。
水道	水道管の破損等による二次災害を防止し、軽減するための措置を講ずる。						
電気	火災等の二次災害を防止、軽減するため、ブレーカーの操作等について利用者への広報に配慮する。						
ガス	火災等の二次災害を防止、軽減するため、ガス栓の閉止等の措置についての利用者への広報に配慮する。						

## 第6章 復旧・復興対策

大規模地震災害発生後の緊急に実施すべき災害応急対策に一定の目途が立った後、引き続き推進する被災者の生活再建及び施設の復旧整備等を通じ、災害に対して強い地域づくりや復興のための基礎的な条件づくりを目指す復旧・復興対策について定める。

### 第1節 防災関係機関の活動

市の復旧・復興対策の組織の設置、職員の確保並びに活動及び防災関係機関の活動については災害対策本部と調整を図りながら迅速に実施する。

#### 1 市

区 分	内 容	
市震災復興本部	設置	市長は、地震災害が発生し、災害応急対策に一定の目途が立った後、復旧・復興対策を実施する必要があると認めるときは、裾野市震災復興本部（以下「復興本部」という。）を設置する。
	災害対策本部との併設	復興本部は、災害対策本部と併設できる。復興本部の運営に当たっては、災害対策本部が実施する事務との整合性の確保に配慮するものとする。
	所掌事務	復興本部の所掌する事務の主なものは、次のとおりである。 ア 裾野市震災復興計画の策定 イ 震災復興状況その他復旧・復興対策に必要な情報の収集及び伝達 ウ 県その他の防災関係機関に対する震災復興対策の実施又は支援の要請 エ 静岡県震災復興基金への協力 オ 相談窓口等の運営 カ 民心安定上必要な広報 キ その他の震災復興計画策定
災害対策本部の調整	災害応急対策との調整を図りながら、円滑な震災復興対策を推進するため、必要に応じ災害対策本部との連絡調整会議を開催する。	
防災会議の開催等	<ul style="list-style-type: none"> <li>復興本部が設置された場合、必要に応じ、裾野市防災会議を開催し、情報の収集伝達及び復旧・復興対策に係る連絡調整等を行う。</li> <li>招集される裾野市防災会議の委員は復旧・復興対策の内容に応じ裾野市防災会議の会長が必要と判断した範囲のものとする。</li> <li>裾野市防災会議は、復興本部との調整を図るものとする。</li> </ul>	

#### 2 静岡県警察(裾野警察署)

社会秩序を維持する活動	第5章第8節に規定する「社会秩序を維持する活動」に準じた活動を行う。
交通の確保対策	第5章 第9節「交通の確保対策」に準じた活動を行う。

#### 3 防災関係機関

##### (1) 指定地方行政機関

機関名	復旧・復興対策として講ずる主要な措置事項
総務省東海総合通信局	<ul style="list-style-type: none"> <li>ア 災害時における電気通信の確保のための応急対策及び非常通信の監理</li> <li>イ 災害地域における電気通信施設の被害状況の調査</li> <li>ウ 通信インフラに支障が発生した被災地の地方公共団体への衛星携帯電話等の災害対策用移動通信機器、災害対策用移動電源車及び臨時災害放送局用設備の貸与</li> </ul>

総務省中部管区行政評価局（静岡行政監視行政相談センター）	<p>ア 被災者への生活支援情報の提供</p> <p>イ 専用電話を備えた相談窓口の開設</p> <p>ウ 特別行政相談所の開設</p>
財務省東海財務局（静岡財務事務所）	<p>ア 被災者の資金の需要状況等に応じ、適当と認められる機関又は団体と緊密な連絡を取りつつ、民間金融機関、保険会社及び証券会社等に対して、災害関係の融資、預貯金の払戻し、保険金の支払い、預り金の払戻し等の業務に関し適切な措置を講ずるよう要請</p> <p>イ 地方公共団体において国有財産（普通財産）を復旧・復興対策の実施の用に供するときは、当該公共団体に対する無償貸付の適切な措置</p>
厚生労働省静岡労働局	<p>ア 復旧・復興事業等における労働災害防止対策の強化</p> <p>イ 労災保険給付等に関する措置、雇用保険の失業等給付に関する措置</p> <p>ウ 離職者の早期再就職等の促進（職業相談、雇用維持の要請等）</p>
農林水産省関東農政局静岡県拠点	<p>農林水産省各局庁、関東農政局企画調整室及び静岡県拠点地方参事官、森林管理局の指示により静岡県に連絡要員（リエゾン）を派遣し、以下の業務を実施する。</p> <p>ア 農作物、営農施設、農地・農業用施設及び森林・林業施設等の被害状況や応急対策の措置状況等に関する、被災自治体が把握している情報の収集及び地方農政局又は森林管理局への報告</p> <p>イ 応急用食料・物資の支援に係る静岡県担当者、内閣府リエゾン及び農林水産本省（食料・物資支援チーム事務局等）との連絡調整</p> <p>ウ 静岡県の食料・物資支援拠点における応急用食料・物資の到着状況に関する、食料・物資支援チーム事務局及び関東農政局への報告</p> <p>エ その他農林水産本省各局庁、関東農政局又は森林管理局が指示する業務</p>
林野庁関東森林管理局	市及び県からの要請に対する復旧用材（国有林材）の供給
経済産業省関東経済産業局	<p>ア 商工鉱業の事業者の被災状況の把握、情報の収集</p> <p>イ 中小企業の復旧・復興資金の融通</p> <p>ウ 生活関連物資の安定供給を行うための小売事業者等の指導</p> <p>エ 電気の安定供給に関すること</p> <p>オ ガスの安定供給に関すること</p>
関東東北産業保安監督部	<p>ア 火薬、高圧ガス、液化石油ガスなどの安全確保に関すること</p> <p>イ 電気の安全確保に関すること</p> <p>ウ ガスの安全確保に関すること</p>
国土交通省中部地方整備局（沼津河川国道事務所）	<p>ア 管轄する基盤施設（道路など）が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で、原状復旧が新たな機能の向上を含めた復興を行うかを迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。</p> <p>イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、関係機関と調整を図り実施する。</p> <p>ウ 復旧・復興事業に関する広報を実施する。</p>
国土交通省中部運輸局	<p>・陸上輸送に関すること</p> <p>ア 緊急輸送の必要性があると認める場合は、自動車輸送事業者に対する輸送力の確保に関する措置</p> <p>イ 県からの要請に対する車両等の調達のあっせん</p>
国土地理院中部地方測量部	<p>ア 国土地理院が提供及び公開する防災関連情報の活用を図る。</p> <p>イ 地理情報システムの活用を図る。</p> <p>ウ 位置に関わる情報の基盤を形成するため、必要に応じて復旧測量等を実施する。</p>
気象庁東京管区气象台（静岡地方气象台）	地震情報（東海地震に関連する情報を含む。）等の発表又は通報並びに解説
環境省関東地方環境事務所	<p>ア 有害物質等の発生等による汚染状況の情報収集及び提供</p> <p>イ 廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集</p> <p>ウ 行政機関等との連絡調整、動物救護活動の状況等に関する情報収集、提供等</p>

環境省中部地方環境事務所	廃棄物処理施設等の被害状況、がれき等の廃棄物の発生量の情報収集
防衛省南関東防衛局	ア 所管財産使用に関する連絡調整 イ 災害時における防衛省本省及び自衛隊との連絡調整 ウ 在日米軍が災害対策措置を行う場合の連絡調整支援

## (2) 指定公共機関

機関名	復旧・復興対策として講ずる主要な措置事項
日本郵便株式会社東海支社 (裾野郵便局)	ア 被災地あて救助用郵便物の料金免除 イ 被災者救助団体に対するお年玉葉書等寄附金の配分 ウ 被災者に対する郵便はがき等の無償交付 エ 被災者が差し出す郵便物の料金免除 オ 災害の発生時又はそのおそれがある場合においては、可能な限り窓口業務を確保する。そのため、警察、消防、その他の関係行政機関、ライフライン事業者、関連事業者並びに報道機関等と密接に連携し、迅速・適切な対応に努める。また、平時においても関係機関等と連携し、災害予防に努める。
日本銀行（静岡支店）	ア 通貨の円滑な供給の確保 イ 現金供給のための輸送・通信手段の確保 ウ 金融機関の業務運営の確保に係る措置 エ 金融機関による金融上の措置の実施に係る要請 オ 各種措置に係る広報
日本赤十字社静岡県支部	ア 義援金の募集・義援金募集配分委員会への参加 イ 協力奉仕者の連絡調整
日本放送協会 (静岡放送局東部報道室)	ア 復旧・復興時の時節に応じた混乱防止、民心の安定及び復旧・復興対策に資するための有効適切な関連番組の編成 イ 復旧・復興状況に関する迅速かつ的確な放送の実施 ウ 生活再建支援策等を広報・PRする番組の的確な放送の実施 エ 県外疎開者を対象とした震災関連情報番組の放送の実施
中日本高速道路株式会社 (東京支社御殿場保全・サービスセンター)	ア 管轄する基盤施設が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を図っていくのかということを迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、市及び県と調整を図るとともに、必要に応じ他の基盤施設の管理者等とも調整を行う。 ウ 復旧・復興事業の進捗等に関する広報を実施する。
東海旅客鉄道株式会社 (静岡支社御殿場駅)	災害の復旧について、応急復旧工事の終了後速やかに本復旧計画をたて、これを実施することとする。 本復旧計画の実施にあたっては、被害原因の調査分析の結果に基づく必要な改良事項を考慮して、その適正を期することとする。
NTT西日本株式会社 株式会社NTTドコモ東海支社静岡支店	ア 施設が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を図っていくのかということを迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、市及び県と調整を図るとともに、必要に応じ他の基盤施設の管理者等とも調整を行う。 ウ 復旧・復興事業の進捗等に関する広報を実施する。
岩谷産業株式会社 アストモスエネルギー株式会社 株式会社ジャパングスエ	LP ガスタンクローリー等による LP ガス輸入基地、2次基地から充填所への LP ガスの配送

ナジー ENEOS グローブ株式会社 ジクシス株式会社	
日本通運株式会社 福山通運株式会社 佐川急便株式会社 ヤマト運輸株式会社 西濃運輸株式会社	復旧・復興事業に関連する車両の確保及び運行
東京電力パワーグリッド株式会社	ア 変電所や配電施設等の設備が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を図っていくのかということを迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、県及び関係市町と調整を図るとともに、必要に応じ他の基盤施設の管理者等とも調整を行う。 ウ 復旧・復興事業の進捗状況や公衆感電防止及び漏電防止に関する広報を実施する。
一般社団法人日本建設業連合会中部支部 一般社団法人全国中小建設業協会	公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力

## (3) 指定地方公共機関

機関名	復旧・復興対策として講ずる主要な措置事項
都市ガス会社 (静岡ガス株式会社)	ア ガス管等の設備が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を図っていくのかということを迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、県及び関係市町と調整を図るとともに、必要に応じ他の基盤施設の管理者等とも調整を行う。 ウ 復旧・復興事業の進捗等に関する広報を実施する。
一般社団法人静岡県LPガス協会東部支部 (御殿場地区会裾野ブロック)	必要に応じ代替燃料の供給に協力する。
静岡放送株式会社 株式会社テレビ静岡 株式会社静岡朝日テレビ 株式会社静岡第一テレビ 静岡エフエム放送株式会社 株式会社エフエムみしま・かなみ	ア 復旧・復興時の時節に応じた混乱防止、民心の安定及び復旧・復興対策に資するための有効適切な関連番組の編成 イ 復旧・復興状況に関する迅速かつ的確な放送の実施 ウ 生活再建支援策等を広報・PRする番組の的確な放送の実施 エ 県外疎開者を対象とした震災関連情報番組の放送の実施
一般社団法人静岡県トラック協会 商業組合静岡県タクシー協会	復旧・復興事業に係わる車両の確保及び運行
土地改良区 (富士裾野東部土地改良区)	ア 管轄する施設(用水路、取水門、頭首工等)が被災した場合には、被害状況と既存計画を踏まえた上で、原状復旧か新たな機能の向上を含めた復興を図っていくのかということを迅速に判断し、復旧・復興事業を実施する。 イ 復旧・復興事業の実施に当たっては、国・県及び市町との調整を図るとともに、必要に応じ他の基盤施設の管理者とも調整する。 ウ 復旧・復興事業の進捗状況等に関する広報を実施する。

公益社団法人静岡県栄養士会	ア 要配慮者等への食糧品の供給に関する協力 イ 避難所における健康相談に関する協力
一般社団法人静岡県建設業協会	公共土木施設の被害調査及び復旧に関する協力

## 第2節 激甚災害の指定

(共通対策編 第4章 復旧・復興対策 第2節「激甚災害の指定」に準ずる。)

## 第3節 震災復興計画の策定

被災地の復興に当たっては、単に震災前の姿に戻すことにとどまることなく、総合的かつ長期的な視野に立ち、より安全で快適な空間創造を目指し、発災後、市民各層の意見を踏まえた震災復興計画を策定する。

また、その際は、女性や災害時要援護者などの多様な主体の参画が図られるよう努めるものとする。

区 分	内 容
計画策定の体制	市長は、必要があると認めたときは、副市長を本部長とする計画策定本部を設置し、震災復興計画を策定する。
計画の構成	計画は、基本方針（ビジョン）と、都市・農地復興、住宅復興、産業復興などからなる分野別復興計画により構成する。
計画の基本方針	計画策定に当たっては、市の総合計画との調整を図るものとする。
計画の公表	計画策定後は、新聞・テレビ・ラジオ等報道機関を通じ、速やかに公表するとともに、臨時刊行物等を配布し、市民に周知し、被災地の復興を促進するものとする。
国・県との調整	計画策定に当たっては、国や県等と調整を行う。

## 第4節 復興財源の確保

復旧・復興対策が円滑に実施できるように被災後できるだけ早い時期に財政需要見込額を把握し、復興財源の確保を図る。

### 1 予算の編成

区 分	内 容
基本方針	復旧・復興事業を迅速に実施するため、予算の執行方針及び編成方針等を定める。
財政需要見込額の算定	被災状況調査を基に、次の財政需要見込額を算定する。 ア 復旧・復興事業 イ 震災復興基金への出捐金及び貸付金 ウ その他
発災年度の予算の執行方針の策定	緊急度が高い復旧・復興事業を滞りなく実施するため、優先的に取り組むべき対策と執行を当面凍結すべき事業を抽出し、予算執行方針を策定する。
予算の編成方針の策定	復旧・復興対策を迅速かつ的確に実施するため、当初予算、補正予算を通じた編成方針を策定する。

### 2 復興財源の確保

区 分	内 容
基本方針	(1) 災害後の復旧・復興対策実施のための事業費は莫大になることが予想され、災害の影響による税収の落ち込み、財政状況の悪化が懸念される。 (2) 復旧・復興対策を迅速かつ的確に実施していくため、財源確保に関する適切な措

	置を講ずる。
地方債の発行	復旧・復興対策に係わる莫大な財政需要と大幅な税収減に対応するため、県と調整を図りながら次の措置を講じ、財源を確保する。 ア 災害復旧事業債 イ 歳入欠かん等債 ウ その他
発災年度の予算の執行方針の策定	緊急度が高い復旧・復興事業を滞りなく実施するため、優先的に取り組むべき対策と執行を当面凍結すべき事業を抽出し、予算執行方針を策定する。
その他の財源確保策	復興を目的とした公営競技等の開催による復興財源の確保を検討する。

## 第5節 震災復興基金の設立

被災者を1日も早く救済し、円滑な自立を支援するとともに、総合的な復旧・復興対策を長期的かつ安定的に進め、被災地域全体の復興を図るため、発災後、必要に応じ震災復興基金を設立する。

### 1 震災復興基金の設立

- 市長は、復旧・復興対策を円滑に実施するため、県の震災復興基金の設立に協力する。
- 市長は、基金の運用に関して、県と所要の調整を図る。

## 第6節 復旧事業の推進

基盤施設（道路・河川・農業用施設などの公共施設等）の管理者は、必要に応じ再度災害防止の観点をも踏まえた速やかな復旧事業の推進を図る。

### 1 復旧計画の策定

区 分	内 容
基本方針	(1) 被災者の1日も早い復興のためには、これらの活動を支える基盤施設の迅速な復旧が必要不可欠である。 (2) そのためには、関連する他の基盤施設の被災状況・応急復旧状況及び既存の計画、都市・農地復興計画の動向等を踏まえ、関連する部署や他機関との調整を図った上で迅速かつ計画的な復旧計画を策定する。
被害調査の報告	各基盤施設の管理者は、管理施設の被害について調査し、円滑な復旧のための措置を講ずる。
復旧計画の策定	各基盤施設の管理者は、被害の状況、地区の特性等を勘案しながら、県の復旧計画と整合を図り、必要に応じ再度災害防止の観点をも踏まえた復旧計画を作成する。

### 2 基盤施設の復旧

基本方針	基盤施設の管理者は、災害による地域の社会経済活動の低下を最小限にとどめるため、可能な限り迅速かつ円滑な復旧を図るものとする。
------	--

実施主体	内 容	
市	復旧事業の実施	基盤施設の管理者は、復旧完了時期の明示に努める。
	地籍調査の実施	平時より地籍調査を実施し、被災後の円滑な復旧・復興事業の基礎資料を整備する。
防災関係機関	復旧事業の実施	復旧計画に基づき、必要に応じて関係機関と調整し、迅速かつ円滑な復旧を図る。
	復旧完了予定時期の明示	復旧完了予定時期の明示に努める。

## 第7節 都市・集落の復興

被災した市街地・集落の復興を迅速かつ円滑に進め、災害に強く快適で利便性の高い地域の構造的基盤の形成を図るとともに、環境に配慮し、高齢者、障がいのある人にきめ細かく配慮した安全で魅力ある地域づくりを行う。

### 1 都市・集落復興計画の策定

基本方針	(1) 被災者の生活確保及び生活再建のために、これらの活動を支える基盤施設の迅速な復興が必要不可欠である。 (2) このため、地域としての面的な被災状況や関連する他の基盤施設の被災状況・応急復旧状況・既存の計画・復旧計画等を踏まえ、必要に応じ新設を含む既存基盤施設の見直しを行う。
実施事項	都市・集落の復興方針を定めた都市・集落復興計画を策定する。

### 2 都市の復興

基本方針	市街化区域内の市街地が被災した場合、災害に強い都市づくりの観点から都市機能の向上が必要と判断した区域については、合理的かつ健全な市街地の形成を図るため、「震災復興都市計画行動計画」に基づき、都市復興計画を作成し、その計画に基づき市街地を復興する。
被害状況の把握	市は、各機関と協力し被害状況調査を行い、県に報告する。
建築基準法第84条による建築制限の実施	・特定行政庁となる市は、緊急復興地区を対象に「建築基準法」第84条による建築制限区域を必要に応じ、指定する。 ・必要に応じ、建築制限期間を延長する。
被災市街地復興推進地域の都市計画案作成	緊急復興地区を対象に被災市街地復興推進地域の都市計画案を作成し、都市計画決定を行う。
都市復興基本計画の策定	県の都市復興基本計画を踏まえ、また県と連絡調整を図り、復興の目標、土地利用方針、都市施設の整備方針及び市街地復興基本方針等を示した都市復興基本計画を策定する。
復興都市計画案等の作成及び事業実施	・緊急復興地区を含む被災地域全域について、実施する事業制度、活用する補助事業等を検討する。 ・都市計画事業を実施する場合には、都市計画案の作成・決定を行い事業を実施する。
復興まちづくり支援事業の実施	住民主体の復興まちづくりを行うために、応急危険度判定士の中から、建築復興アドバイザーを養成し、住民組織やまちづくり活動への支援・助成等を行う。

### 3 集落の復興(主に市街化調整区域)

基本方針	市街化調整区域の農地・集落地等が被災した場合、居住環境の向上等を図る必要がある区域については、災害に強く合理的かつ健全な居住環境等の形成を図るため、単なる原状復旧ではなく、復興を計画的に実施する。
被害状況の把握	各機関と協力し、被害状況調査を行い、県に報告する。
集落復興基本計画の作成	県の復興基本計画方針を踏まえ、また県と連絡調整を図り、復興の目標、土地利用方針等を定めた集落復興基本計画を作成する。
被災市街地復興推進地域の都市計画案作成	被害が甚大で緊急に面的整備が必要と判断される区域を対象に、被災市街地復興推進地域の都市計画の作成・決定を行う。
復興都市計画案等の作成及び実施	被災した地区において実施する事業制度等を検討する。都市計画事業等を実施する場合には、都市計画の作成・決定を行い、事業を実施する。
集落復興計画案の作成及び実施	土木・農業・林業関係等の基盤整備事業を活用し、復興を行うとした地区については、活用する事業制度等を検討し、集落復興計画を作成し、実施する。
集落復興支援事業の実施	住民主体の集落復興を行うために、応急危険度判定士の中から、建築復興アドバイザーを養成し、住民組織やまちづくり活動への支援・助成等を行う。

## 第8節 被災者の生活再建支援

被災者が、新たな生活への意欲を持つことに重点を置き、市民生活の安定を図るための施策を講ずるとともに、自力による生活再建を支援する。

### 1 恒久住宅対策

基本方針	被災者の生活再建を支援するため、生活基盤である住宅については、被災者による自力再建を基本とした住宅再建支援を行うとともに、災害公営住宅等の供給を行う。
住宅復興計画の策定	県の住宅復興計画を踏まえ、また、県と連絡調整を図り、住宅復興方針等を定めた裾野市住宅復興計画を策定する。
県との協議	災害公営住宅等に関する事項等について、県と協議を行う。
災害公営住宅等の供給	・公有地等のオープンスペースを建設予定地として確保し、災害公営住宅等を供給する。 ・買取り・借上げ方式による災害公営住宅等の供給を推進する。 ・特定優良賃貸住宅のストックの活用を図る。
住宅に関する情報提供	相談窓口等において自力再建支援及び災害公営住宅等の入居等に関する情報等を提供する。

### 2 災害弔慰金等の支給

基本方針	震災により死亡した者の遺族に対し災害弔慰金を、精神又は身体に著しい障がいを受けた者に対し災害障害見舞金を支給する。
支給対象者の把握	「災害救助法」の適用のための調査結果等を活用し、災害弔慰金と災害障害見舞金の支給対象者を把握する。
支給方法の決定及び支給	災害弔慰金と災害障害見舞金の支給方法を定め、「災害弔慰金の支給等に関する法律」に基づき支給する。

### 3 被災者の経済的再建支援

(共通対策編 第4章 復旧・復興対策 第3節 被災者の生活再建支援に準ずる。)

### 4 雇用対策

基本方針	失業者の発生を未然に防ぎ、被災者の経済的な生活基盤を確保し、迅速な生活再建を図るための支援を実施する。
相談業務の実施	雇用に関する相談があった場合には、公共職業安定所に伝達する。

### 5 要配慮者の支援

基本方針	(1) 高齢者や障がいのある人等のいわゆる要配慮者は、震災による生活環境の変化等に対応することが一般の被災者よりも困難であることから、速やかに安定した生活を回復できるように積極的な支援を行う。 (2) 生活環境の変化や心理的不安等の理由から身体的及び精神的に変調をきたした被災者が震災から早期に立ち直れるよう、精神的支援策を実施する。
被災状況の把握	・「災害救助法」の適用のための調査結果等を活用し、次の事項を把握し県に報告する。 ・情報が不足している地域には補足調査を行う。 ア 避難行動要支援者の被災状況及び生活実態 イ 被災地内外の社会福祉施設の被災状況及び再開状況
一時入所の実施	震災により新たに社会福祉施設への入所が必要となった要配慮者に対し、市有施設への一時入所を実施する。
福祉サービスの拡充	・定員以上の入所者及び通所者を受け入れている市有施設を対象に、人員確保や必要となる設備の導入を行うとともに、民間の施設を対象に支援する。 ・緊急通報システムの整備、巡回の実施といった在宅福祉サービスの充実を図る。

	・被災児童等については、学校巡回相談等を実施するとともに、児童・学童相談所等の専門相談所を設置する。
健康管理の実施	応急住宅に居住する被災住民に対する健康管理体制を確立するとともに、保健管理、栄養指導等を実施する。

## 6 生活再建支援策等の広報・PR

基本方針	被災直後の応急復旧期から復興期にかけて継続的に生じる生活再建関連施策に関する情報提供のニーズに対応し、被災者の一日も早い生活再建を促進するため、「広報すその」等を活用し、生活再建に関する支援施策等の震災関連情報の提供を積極的に行う。
------	--

## 7 相談窓口の設置

基本方針	被災者が速やかに安全で安心できる生活を送れるよう、様々な問題解決への助言や情報提供等の各種生活相談を実施する総合的な相談窓口を設置する。	
実施主体	内 容	
静岡県警察（裾野警察署）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害総合相談所において、倒壊家屋の解体や修復工事に係る不当な価格要求等の悪徳商法、暴力団の介入事案等に関する相談に対応する。</li> <li>・市、及び県の相談窓口等との連携を図り、相談体制の充実を図る。</li> </ul>	
市	相談窓口等の開設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発災後の相談ニーズに応じ相談窓口等を設置するとともに、相談担当職員等を動員する。</li> <li>・相談員等の設置に当たり、必要に応じ県に対して相談員の派遣を要請する。</li> </ul>
	相談窓口等の業務の遂行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話や面接等により、必要とされる情報を的確に提供し、様々な生活相談に対応する。</li> <li>・県と十分な連携を図り、相談体制の一層の充実を図る。</li> </ul>
	相談窓口等の閉鎖等	相談状況に応じ、相談窓口等の役割が終了したと判断される場合には、これを閉鎖する。

## 8 保険の活用

区 分	内 容
地震保険の普及促進	地震保険は、地震等による被災者の生活安定に寄与することを目的とした公的保険制度であり、被災者の生活再建にとって有効な手段の一つであることから、その制度の普及促進に努めるものとする。

## 第9節 地域経済復興支援

被災地域の活性化を図り、市内に活力ある経済社会を実現するため、総合的できめ細かな経済支援策を実施する。

### 1 産業振興計画の策定

基本方針	経済復興を迅速に行うため、市と民間が緊密に連携し、各々の役割分担を着実に実施するため、産業復興方針等を定めた産業復興計画を策定する。
実施事項	産業復興方針等を定めた産業復興計画を策定する。

## 2 中小企業を対象とした支援

基本方針	被災した中小企業の自立再建を図るため、中小企業を対象とした事業の場の確保及び資金の調達に関する支援等を実施する。
中小企業の被災状況の把握	県が行う中小企業の被災状況調査に協力する。
事業の場の確保	事業の場の確保に関する支援策を、必要に応じ実施する。
支援制度・施策の周知	中小企業を対象とした支援制度・施策を県と連携し、周知する。

## 3 農林業者を対象者とした支援

基本方針	被災した農林業関連施設の迅速な災害復旧を図り、経営・生活の維持・安定を図るため、農林業者を対象とした支援を実施する。
農林業者の被災状況の把握	農林業者の被災状況調査を、県と連携し実施する。
支援制度・施策の周知	農林業者を対象とした支援制度・施策を、県と連携し周知する。

## 4 地域全体に影響を及ぼす支援

基本方針	地域経済の復興を迅速に軌道に乗せ、地域をより発展させるため、地域全体に影響を及ぼす支援策を実施する。
イベント・商談会等の実施	県と連携し必要に応じ、市独自のイベント・商談会等を実施する。
誘客対策の実施	県や関係団体等と連携し必要に応じ、誘客対策を実施する。